



# APPENDIX **A**

## Cisco NCS コマンド リファレンス

この付録には、すべてのタイプの Cisco Prime Network Control System (NCS) 配置のディスク領域の管理に関する必要な情報が記載されており、Cisco NCS に固有のコマンドがアルファベット順に一覧表示されています。コマンドには、次のモードがあります。

- EXEC
  - システムレベル
  - Show
- コンフィギュレーション
  - コンフィギュレーション サブモード

コンフィギュレーション モードにアクセスするには、EXEC モードでシステムレベルの **config** または **configure** コマンドを使用します。

この付録では、コマンドごとに、その使用方法の簡単な説明、コマンドの構文、使用上のガイドライン、および 1 つ以上の例を示します。この付録全体で、Cisco NCS サーバは、Cisco NCS サーバのホスト名の代わりに *ncs* という名前を使用します。



(注) コマンドの使用でエラーが発生した場合は、**debug** コマンドを使用して、エラーの原因を判断してください。

## Cisco NCS のディスク領域の管理

ここでは、すべてのタイプの配置に対する Cisco NCS アプライアンスのディスク領域について説明します。各 Cisco NCS アプライアンスのディスク領域の量は異なり、ディスク領域の管理は、Cisco NCS を効率的に使用するうえで重要です。

Cisco NCS CLI コマンドの使用に進む前に Cisco NCS アプライアンスのディスク領域の管理に慣れてください。小規模、中規模、および大規模のフォーム ファクタおよび VMware とともに、アプライアンスに Cisco NCS を展開できます。表 A-1 では、すべてのフォーム ファクタの Cisco NCS アプライアンス、および Cisco NCS を管理するために必要な使用可能なディスク容量について説明します。

表 A-1 Cisco NCS アプライアンスのコンフィギュレーション

アプライアンスの フォーム ファクタ	Cisco NCS アプライアンス	ハード ディスクのコン フィギュレーション
小	-	2 x 250 GB SATA HDD
中	-	2 x 300 GB SAS RAID HDD
大	-	4 x 300 GB SAS RAID HDD
VMware	NCS-DEMO-10 (デモまたは 評価を実行します)	30 GB
	L-NCS-1.0-K9 (PxP 製品イ メージを実行します)	60 GB
	L-NCS-1.0-K9 (M&T 製品 イメージを実行します)	200 GB

表 A-2 に、合計 6 GB のディスク領域がある、/var パーティションで使用できるディスク領域を示します。オペレーティング システムおよび Cisco ADE OS 2.0 ログ ファイル用の 6 GB のディスク領域のうち、308 MB を使用できます。中規模および大規模の配置では、残りの 5.7 GB のディスク領域を使用できます。

表 A-2 /var パーティションのディスク領域

プロセス	ファイル	小	中および大	VMware	VMware	VMware
Linux OS	システム	-	258 MB	-	-	-
Cisco ADE OS 2.0	/var/log/ade/ADE.log	-	50 MB	-	-	-

Cisco NCS で作成するすべてのファイルは /opt パーティションに存在します。ファイルサイズの増加が、システム内の他のファイルとサービスに影響を与えない制限内で収まるように、/opt パーティションで作成するファイル用のディスク領域を管理する必要があります。

表 A-3 に、合計 410 GB のディスク領域がある、/opt パーティションで使用できるディスク領域を示します。中規模および大規模の配置では、161 GB のディスク領域および残りの 249 GB を使用できます。バックアップ、復元、および複製に必要なディスク領域を考慮した後で、データベースの増加のために残りの 249 GB のディスク容量をよりよく使用できます。

表 A-3 /opt パーティションのディスク領域

プロセス	ファイル	小	中および大	VMware	VMware	VMware
CSCOpdm	アプリケーション製品ファイル (Oracle、 Tomcat、および TimesTen を含む)		7.5 GB			
PxP データ ベース	/opt/oracle/base/oradata/cpm10/cpm01.dbf		31 GB			
MnT データ ベース	opt/oracle/base/oradata/cpm10/mnt01.dbf		120 GB			

表 A-3 /opt パーティションのディスク領域 (続き)

プロセス	ファイル	小	中および大	VMware	VMware	VMware
TimesTen ユーザ キャッシュ データベース	opt/oracle/base/product/11.2.0/dbhome_1/ dbs/datfttuser.dbf		100 GB			
Oracle RDBMS シス テム	REDO ログ (redo01.log、redo02.log、お よび redo03.log) 組み込みデータベース： temp01.dbf example01.dbf system01.dbf undotbs01.dbf sysaux01.dbf users01.dbf control01.ctl		50 MB  30 MB 104 MB 770 MB 160 MB 580 MB 5 MB 9 MB			
Monit	/opt/CSCOcpm/logs/monit.log		55 MB			
CPM PSC ロ グ	/opt/CSCOcpm/logs/cpm-psc.log*.*		200 MB			
CPM PrRT ロ グ	/opt/CSCOcpm/logs/cpm-psc.log*.*		200 MB			
CPM Profiler ログ	/opt/CSCOcpm/profiler/logs/profiler.log*		200 MB			
MnT Collector ロ グ	/opt/CSCOcpm/logs/mnt-collector.out		20 MB			
MnT Decap ログ	/opt/CSCOcpm/logs/mnt-decap.out		100 MB			
CPM Client Provisioning エージェント バイナリ	/opt/CSCOcpm/provisioning		100 MB			
Tomcat	/opt/CSCOcpm/appsrv/apache-tomcat-6.0. 18/logs/*		100 MB			
PrRT 監査ロ ガー	/opt/CSCOcpm/logs/prrt.log					
CPM のデー タベースの バックアップ と復元タスク						
CPM の複製 ストリーム キューとス テージング領 域						
MnT 履歴 データ						

Cisco NCS へのログインの詳細については、『*Cisco Prime Network Control System Configuration Guide, Release 1.0*』を参照してください。

この付録の構成は、次のとおりです。

- 「EXEC コマンド」(P.A-4)
- 「show コマンド」(P.A-62)
- 「コンフィギュレーション コマンド」(P.A-92)

## EXEC コマンド

ここでは、各 EXEC コマンドをリストします。各コマンド ページには、その使用方法の簡単な説明、コマンド構文、コマンドのデフォルト、コマンド モード、使用上のガイドライン、およびコマンドと関連するコマンドの例があります。

表 A-4 に、この項で説明する EXEC コマンドをリストします。

表 A-4 EXEC コマンドのリスト

<ul style="list-style-type: none"> <li>• application install</li> <li>• application remove</li> <li>• application reset-config</li> <li>• application start</li> <li>• application stop</li> <li>• application upgrade</li> <li>• backup</li> <li>• backup-logs</li> <li>• clock</li> <li>• configure</li> <li>• copy</li> <li>• debug</li> <li>• delete</li> <li>• dir</li> <li>• exit</li> <li>• forceout</li> <li>• halt</li> <li>• mkdir</li> <li>• ncs start</li> <li>• ncs stop</li> <li>• ncs status</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ncs migrate</li> <li>• ncs password ftpuser</li> <li>• ncs password root password</li> <li>• ncs key genkey</li> <li>• ncs key importcert</li> <li>• ncs key importkey</li> <li>• ncs key listcerts</li> <li>• ncs key deletecert</li> <li>• ncs key importsigncert</li> <li>• ncs db sql</li> <li>• nslookup</li> <li>• patch install</li> <li>• patch remove</li> <li>• ping</li> <li>• ping6</li> <li>• reload</li> <li>• restore</li> <li>• rmdir</li> <li>• root</li> <li>• root_enable</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• show (show コマンドを参照)</li> <li>• ssh</li> <li>• tech dumptcp</li> <li>• telnet</li> <li>• terminal length</li> <li>• terminal session-timeout</li> <li>• terminal session-welcome</li> <li>• terminal terminal-type</li> <li>• traceroute</li> <li>• undebg</li> <li>• write</li> </ul>
--	--	--

## application install



(注)

Cisco NCS アプリケーションは、すべてのサポート対象のアプライアンスおよび VMware に Cisco IOS イメージとともにあらかじめインストールされるため、通常の操作では CLI から **application install** コマンドを実行できません。

Cisco NCS 以外の特定のアプリケーションをインストールするには、EXEC モードで **application install** コマンドを使用します。この機能を削除するには、**application remove** コマンドを使用します。

**application install** *application-bundle remote-repository-name*

### 構文の説明

<i>application-bundle</i>	アプリケーションバンドルのファイル名。最大 255 文字の英数字で指定します。
<i>remote-repository-name</i>	リモートリポジトリ名。最大 255 文字の英数字で指定します。

### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

EXEC

### 使用上のガイドライン

指定したアプリケーションバンドルをアプライアンスにインストールします。アプリケーションバンドルファイルは、指定したリポジトリから取得されます。

アプリケーションの別のインストールまたは削除操作中に、**application install** コマンドや **application remove** コマンドを入力すると、次の警告メッセージが表示されます。

An existing application install, remove, or upgrade is in progress. Try again shortly.

### 例

#### 例 1

```
ncs/admin# application install ncs-appbundle-1.0.2.054.i386.tar.gz myrepository
Do you want to save the current configuration ? (yes/no) [yes] ? y
Please enter yes or no
Do you want to save the current configuration ? (yes/no) [yes] ? yes
Generating configuration...
Saved the running configuration to startup successfully
Initiating Application installation...
Extracting NCS database content...
Starting NCS database processes...
Restarting NCS database processes...
Creating NCS M&T session directory...
Performing NCS database priming...
```

Application successfully installed

#### 例 2

```
ncs/admin# application install ncs-appbundle-1.0.2.054.i386.tar.gz myrepository
Do you want to save the current configuration ? (yes/no) [yes] ? no
Initiating Application installation...
```

```
Extracting NCS database content...
Starting NCS database processes...
Restarting NCSdatabase processes...
Creating NCS M&T session directory...
Performing NCS database priming...
```

```
Application successfully installed
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">application remove</a>	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
<a href="#">application start</a>	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
<a href="#">application stop</a>	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。
<a href="#">application upgrade</a>	アプリケーションバンドルをアップグレードします。
<a href="#">show application</a>	システムにインストールされているアプリケーションパッケージのアプリケーション情報を表示します。

## application remove



(注)

アップグレードに関する明示的な指示のない限り、Cisco NCS アプリケーションを削除するために、CLI から **application remove** コマンドを実行できません。

Cisco NCS 以外の特定のアプリケーションを削除するには、EXEC モードで **application remove** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**application remove application-name**

**no application remove application-name**

## 構文の説明

<i>application-name</i>	アプリケーション名。最大 255 文字の英数字で指定します。
-------------------------	--------------------------------

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

EXEC

## 使用上のガイドライン

アプリケーションを削除またはアンインストールします。

## 例

```
ncs/admin# application remove ncs
Continue with application removal? [y/n] y

Application successfully uninstalled
ncs/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>application install</code>	アプリケーション バンドルをインストールします。
	<code>application start</code>	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
	<code>application stop</code>	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。
	<code>application upgrade</code>	アプリケーション バンドルをアップグレードします。
	<code>show application</code>	システムにインストールされているアプリケーション パッケージのアプリケーション情報を表示します。

## application reset-config

アプリケーション コンフィギュレーションを工場出荷時のデフォルト設定にリセットするには、EXEC モードで **application reset-config** コマンドを使用します。

**application reset-config application-name**

構文の説明	<i>application-name</i>	コンフィギュレーションを工場出荷時のデフォルト設定にリセットするアプリケーションの名前。255 文字までの英数字で指定します。

**デフォルト** デフォルトの動作や値はありません。

**コマンド モード** EXEC

**使用上のガイドライン** **application reset-config** コマンドを使用すると、Cisco NCS アプライアンスまたは VMware を再イメージ化せずに、Cisco NCS コンフィギュレーションを工場出荷時のデフォルト設定にリセットできます。

**例 1**

```

ncs/admin# application reset-config ncs
Initialize your identity policy database to factory defaults? (y/n): y
Reinitializing local policy database to factory default state...
Stopping NCS Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Stopping NCS Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping NCS Monitoring & Troubleshooting Alert Process...
Stopping NCS Application Server...
Stopping NCS Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping NCS Database processes...
Extracting NCS database content...
Starting NCS database processes...
Restarting NCS database processes...
Creating NCS M&T session directory...
Performing NCS database priming...

Application successfully reset configuration

```

**例 2**

```
ncs/admin# application reset-config ncs
Initialize your identity policy database to factory defaults? (y/n): n
Existing policy database will be retained.

Application successfully reset configuration
ncs/admin#
```

## application start

特定のアプリケーションをイネーブルにするには、EXEC モードで **application start** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**application start** *application-name*

**構文の説明**

<i>application-name</i>	イネーブルにする、事前に定義されたアプリケーションの名前。255 文字までの英数字で指定します。
-------------------------	--

**デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

**コマンドモード**

EXEC

**使用上のガイドライン**

アプリケーションをイネーブルにします。

Cisco NCS アプリケーションを起動するには、このコマンドを使用できません。このコマンドを使用してアプリケーションを起動すると、Cisco NCS がすでに稼動していることがわかります。

**例**

```
ncs/admin# application start ncs

NCS Database processes is already running, PID: 7585
NCS M&T Session Database is already running, PID: 7851
NCS Application Server process is already running, PID: 7935
NCS M&T Log Collector is already running, PID: 7955
NCS M&T Log Processor is already running, PID: 8005
NCS M&T Alert Processor is already running, PID: 8046

ncs/admin#
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<a href="#">application install</a>	アプリケーションバンドルをインストールします。
<a href="#">application remove</a>	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
<a href="#">application stop</a>	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。



コマンド	説明
<a href="#">application upgrade</a>	アプリケーション バンドルをアップグレードします。
<a href="#">show application</a>	システムにインストールされているアプリケーション パッケージのアプリケーション情報を表示します。

## application stop

特定のアプリケーションをディセーブルにするには、EXEC モードで **application stop** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**application stop** *application-name*

### 構文の説明

<i>application-name</i>	ディセーブルにする、事前に定義されたアプリケーションの名前。最大 255 文字の英数字で指定します。
-------------------------	--

### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

EXEC

### 使用上のガイドライン

アプリケーションをディセーブルにします。

### 例

```
ncs/admin# application stop ncs

Stopping NCS Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Stopping NCS Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping NCS Monitoring & Troubleshooting Alert Process...
Stopping NCS Application Server...
Stopping NCS Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping NCS Database processes...

ncs/admin#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">application install</a>	アプリケーション バンドルをインストールします。
<a href="#">application remove</a>	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
<a href="#">application start</a>	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
<a href="#">application upgrade</a>	アプリケーション バンドルをアップグレードします。
<a href="#">show application</a>	システムにインストールされているアプリケーション パッケージのアプリケーション情報を表示します。

## application upgrade

特定のアプリケーション バンドルをアップグレードするには、EXEC モードで **application upgrade** コマンドを使用します。この機能を削除するには、**application remove** コマンドを使用します。

**application upgrade** *application-bundle remote-repository-name*

### 構文の説明

<i>application-bundle</i>	アプリケーション名。最大 255 文字の英数字で指定します。
<i>remote-repository-name</i>	リモート リポジトリ名。最大 255 文字の英数字で指定します。

### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

EXEC

### 使用上のガイドライン

アプリケーション バンドルをアップグレードし、アプリケーション コンフィギュレーション データを保存します。

アプリケーションの別のアップグレード操作の進行中に **application upgrade** コマンドを入力すると、次の警告メッセージが表示されます。

An existing application install, remove, or upgrade is in progress. Try again shortly.



#### 注意

アップグレードの進行中は、**backup** または **restore** コマンドを入力しないでください。このアクションを実行すると、データベースが破損する可能性があります。

### 例

#### 例 1

```
ncs/admin# application upgrade ncs-appbundle-1.0.2.054.i386.tar.gz myremoterepository
Do you want to save the current configuration ? (yes/no) [yes] ? yes
Generating configuration...
Saved the running configuration to startup successfully
Initiating Application Upgrade...
ncs/admin#
```

#### 例 2

```
ncs/admin# application upgrade ncs-appbundle-1.0.2.054.i386.tar.gz myremoterepository
Do you want to save the current configuration ? (yes/no) [yes] ? no
Initiating Application Upgrade...
ncs/admin#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">application install</a>	アプリケーション バンドルをインストールします。
<a href="#">application remove</a>	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
<a href="#">application start</a>	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。

コマンド	説明
<code>application stop</code>	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。
<code>show application</code>	システムにインストールされているアプリケーション パッケージのアプリケーション情報を表示します。

## backup

バックアップ (Cisco NCS と Cisco ADE OS データを含む) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存するには、EXEC モードで **backup** コマンドを使用します。Cisco ADE OS データなしで Cisco NCS アプリケーション データだけをバックアップするには、**application** コマンドを使用します。

**backup backup-name repository repository-name application application-name**

### 構文の説明

<i>backup-name</i>	バックアップ ファイルの名前。100 文字までの英数字で指定します。
<i>repository-name</i>	ファイルをバックアップする場所。80 文字までの英数字で指定します。
<i>application-name</i>	アプリケーション名。最大 255 文字の英数字で指定します。

### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

EXEC

### 使用上のガイドライン

Cisco NCS と Cisco ADE OS データのバックアップを実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。

Cisco ADE OS データなしで Cisco NCS アプリケーション データだけをバックアップするには、**application** コマンドを使用します。

### 例

#### 例 1

```
ncs/admin# backup mybackup repository myrepository
% Creating backup with timestamped filename: mybackup-100805-1222.tar.gpg
ncs/admin#
```

#### 例 2

```
ncs/admin# backup mybackup repository myrepository application ncs
% Creating backup with timestamped filename: mybackup-100805-1240.tar.gpg
ncs/admin#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<code>backup-logs</code>	システム ログをバックアップします。
<code>delete</code>	Cisco NCS サーバからファイルを削除します。
<code>dir</code>	Cisco NCS サーバ上のファイルを一覧表示します。

コマンド	説明
<code>reload</code>	システムをリブートします。
<code>repository</code>	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。
<code>restore</code>	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
<code>show backup history</code>	システムのバックアップ履歴を表示します。
<code>show repository</code>	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップ ファイルを表示します。

## backup-logs

システム ログをバックアップするには、EXEC モードで **backup-logs** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**backup-logs** *backup-name* **repository** *repository-name*

### 構文の説明

<i>backup-name</i>	バックアップする 1 つ以上のファイルの名前。100 文字までの英数字で指定します。
<i>repository-name</i>	ファイルをバックアップする場所。80 文字までの英数字で指定します。

### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

EXEC

### 使用上のガイドライン

システム ログをバックアップします。

### 例

```
ncs/admin# backup-logs mybackup repository myrepository
% Creating log backup with timestamped filename: mybackup-100805-1754.tar.gz
ncs/admin#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<code>backup</code>	バックアップ (Cisco NCS と Cisco ADE OS) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
<code>restore</code>	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
<code>repository</code>	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。
<code>show backup history</code>	システムのバックアップ履歴を表示します。
<code>show repository</code>	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップ ファイルを表示します。

## clock

システム クロックを設定するには、EXEC モードで **clock** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**clock set** [*month day hh:min:ss yyyy*]

### 構文の説明

<i>month</i>	現在の月の名前。3 文字までの英字で指定します。たとえば、January は Jan と指定します。
<i>day</i>	現在の日（日付）。値は 0 ～ 31 の範囲です。2 桁までの数値で指定します。
<i>hh:mm:ss</i>	現在の時間、分、および秒（24 時間形式）。
<i>yyyy</i>	現在の年（省略なし）。

### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

EXEC

### 使用上のガイドライン

システム クロックを設定します。変更を有効にするには、クロックをリセット後に Cisco NCS サーバを再起動する必要があります。

### 例

```
ncs/admin# clock set May 5 18:07:20 2010
ncs/admin# show clock
Thu May 5 18:07:26 UTC 2010
ncs/admin#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">show clock</a>	システム ソフトウェア クロックに設定されている日付と時刻を表示します。

## configure

コンフィギュレーション モードに入るには、EXEC モードで **configure** コマンドを使用します。このコマンドで **replace** オプションを使用すると、既存のコンフィギュレーションを上書きするシステムにリモート コンフィギュレーションをコピーします。

**configure terminal**

### 構文の説明

<b>terminal</b>	コンフィギュレーション コマンドを端末から実行します。
-----------------	-----------------------------

## EXEC コマンド

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

EXEC

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、コンフィギュレーション モードを開始するために使用します。このモードのコマンドは、(Enter キーを押して) 入力するとすぐに、実行コンフィギュレーション ファイルへの書き込みを行うことに注意してください。

コンフィギュレーション モードを終了して EXEC モードに戻るには、**end** または **exit** と入力するか、Ctrl+z キーを押します。

コンフィギュレーションに加えた変更内容を表示するには、EXEC モードで **show running-config** コマンドを使用します。

## 例

## 例 1

```
ncs/admin# configure
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ncs/admin(config)#
```

## 例 2

```
ncs/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ncs/admin(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">show running-config</a>	現在の実行コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。
<a href="#">show startup-config</a>	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

## copy

ファイルをコピー元からコピー先にコピーするには、EXEC モードで **copy** コマンドを使用します。Cisco NCS で **copy** コマンドを実行すると、コンフィギュレーション (実行コンフィギュレーションまたはスタートアップ コンフィギュレーション) がコピーされます。

## 実行コンフィギュレーション

Cisco NCS のアクティブなコンフィギュレーションでは、そのコンフィギュレーション自体が Cisco NCS RAM に保存されます。入力するすべてのコンフィギュレーション コマンドは、そのコマンド自体が実行コンフィギュレーションに保存されます。Cisco NCS サーバをリブートすると、実行コンフィギュレーションが失われます。加えた変更を保存する場合は、実行コンフィギュレーションをネットワーク サーバなどの安全な場所にコピーするか、Cisco NCS サーバのスタートアップ コンフィギュレーションとして保存する必要があります。

### スタートアップ コンフィギュレーション

スタートアップ コンフィギュレーションは直接編集できません。入力するすべてのコマンドは、実行コンフィギュレーションに保存され、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーすることができます。

つまり、Cisco NCS サーバをブートすると、スタートアップ コンフィギュレーションが最初の実行コンフィギュレーションとなります。コンフィギュレーションを変更すると、行った変更を反映するために実行コンフィギュレーションは更新されますがスタートアップ コンフィギュレーションは変更されないため、2つのコンフィギュレーションに差異が生じます。変更を永続的なものにするには、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーする必要があります。

次のコマンド ラインは、使用可能な **copy** コマンド シナリオの一部を示しています。

**copy running-config startup-config**—実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

**copy run start**—スタートアップ コンフィギュレーションを、実行コンフィギュレーションに置き換えます。



(注)

実行コンフィギュレーションを保存しない場合、次回 Cisco NCS サーバをリブートしたときに、コンフィギュレーションに加えた変更がすべて失われます。現在のコンフィギュレーションが正しいことを確認したら、**copy run start** コマンドを使用して、コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

**copy startup-config running-config**—スタートアップ コンフィギュレーションを、実行コンフィギュレーションにコピーします。

**copy start run**—スタートアップ コンフィギュレーションを、実行コンフィギュレーションの上部にマージします。

**copy [protocol://hostname/location] startup-config**—リモート ファイルをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーしますが、マージはしません。

**copy [protocol://hostname/location] running-config**—リモート ファイルを実行コンフィギュレーションにコピーしてマージします。

**copy startup-config [protocol://hostname/location]**—スタートアップ コンフィギュレーションをリモート システムにコピーします。

**copy running-config [protocol://hostname/location]**—実行コンフィギュレーションをリモート システムにコピーします。

**copy logs [protocol://hostname/location]**—システムのログ ファイルを別の場所にコピーします。



(注)

**copy** コマンドは、ローカル ディスクに対してだけサポートされており、リポジトリに対してはサポートされていません。

## 構文の説明

<b>running-config</b>	現在の実行コンフィギュレーション ファイルを表します。
<b>startup-config</b>	初期化（スタートアップ）時に使用されたコンフィギュレーション ファイルを表します。
<i>protocol</i>	プロトコル キーワードのオプションについては、表 A-5 を参照してください。
<i>hostname</i>	コピー先のホスト名。
<i>location</i>	コピー先の場所。
<b>logs</b>	システムのログ ファイル。
<b>all</b>	すべての Cisco NCS ログ ファイルをシステムから別の場所にコピーします。すべてのログは、 <b>ncslogs.tar.gz</b> としてパッケージ化され、リモートホストの指定されたディレクトリに転送されます。
<b>filename</b>	単一の Cisco NCS ログ ファイルをコピーし、そのファイルをリモートホストにある指定されたディレクトリに、元の名前で転送できます。
<i>log_filename</i>	<b>show logs</b> コマンドによって表示される Cisco NCS ログ ファイルの名前 (255 文字以内)。
<b>mgmt</b>	Cisco NCS 管理デバッグ ログと Tomcat ログをシステムからコピーし、 <b>mgmtlogs.tar.gz</b> としてバンドルしたうえで、リモートホスト上の指定されたディレクトリに転送します。
<b>runtime</b>	Cisco NCS ランタイム デバッグ ログをシステムからコピーし、 <b>runtimelogs.tar.gz</b> としてバンドルしたうえで、リモートホスト上の指定されたディレクトリに転送します。

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

EXEC

## 使用上のガイドライン

**copy** コマンドの基本的な機能として、ある場所から別の場所に、ファイル（システム イメージやコンフィギュレーション ファイルなど）をコピーできます。指定したファイルのコピー元およびコピー先には、Cisco NCS ファイル システムを使用して、サポートされているローカルまたはリモート ファイルの場所を指定できます。使用されているファイル システム（ローカル メモリ ソースまたはリモート システム）によって、コマンドで使用される構文が決定されます。

必要なすべてのコピー元とコピー先の情報、および使用するユーザ名とパスワードをコマンドラインに入力できます。または、**copy** コマンドを入力して、不足情報がある場合にサーバにプロンプトを表示させることができます。



## ワンポイントアドバイス

エイリアスを使用すると、入力を省力化できます。たとえば、**copy run start** (**copy running-config startup-config** コマンドの省略形) と入力できます。

コピー プロセスが完全に完了するまでには、数分間かかることがあります。これは、使用しているプロトコルやネットワークによって異なります。

ファイル転送には、ディレクトリに対する相対ファイル名を使用します。

その場合、エラーとして標準の FTP または SCP エラー メッセージが発生することがあります。



表 A-5 プロトコル プレフィックスのキーワード

キーワード	発信元または送信先
<b>ftp</b>	FTP ネットワーク サーバの発信元または送信先の URL。このエイリアスの構文： <b>ftp:[[/username [:password]@]location]/directory]/filename</b>
<b>scp</b>	SCP ネットワーク サーバの発信元または送信先の URL。このエイリアスの構文： <b>scp:[[/username [:password]@]location]/directory]/filename</b>
<b>sftp</b>	SFTP ネットワーク サーバの発信元または送信先の URL。このエイリアスの構文： <b>sftp:[[/location]/directory]/filename</b>
<b>tftp</b>	TFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。このエイリアスの構文： <b>tftp:[[/location]/directory]/filename</b>

## 例

## 例 1

```
ncs/admin# copy run start
Generating configuration...
ncs/admin#
```

## 例 2

```
ncs/admin# copy running-config startup-config
Generating configuration...
ncs/admin#
```

## 例 3

```
ncs/admin# copy start run
ncs/admin#
```

## 例 4

```
ncs/admin# copy startup-config running-config
ncs/admin#
```

## 例 5

```
ncs/admin# copy logs disk:/
Collecting logs...
ncs/admin#
```

## 例 6

```
ncs/admin# copy disk://mybackup-100805-1910.tar.gz ftp://myftpserver/mydir
Username:
Password:
ncs/admin#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">application install</a>	Cisco NCS インスタンスを開始または停止します。
<a href="#">backup</a>	バックアップ (Cisco NCS と Cisco ADE OS) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。

コマンド	説明
<code>delete</code>	Cisco NCS サーバからファイルを削除します。
<code>dir</code>	Cisco NCS サーバ上のファイルを一覧表示します。
<code>reload</code>	システムをリブートします。
<code>restore</code>	特定のレジストリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
<code>show application</code>	アプリケーション ステータスとバージョン情報を表示します。
<code>show version</code>	システムのソフトウェア バージョンについての情報を表示します。

## debug

コマンドの状況に対するエラーまたはイベントを表示するには、EXEC モードで **debug** コマンドを使用します。

**debug {all | application | backup-restore | cdp | config | icmp | copy | locks | logging | snmp | system | transfer | user | utils}**

### 構文の説明

<b>all</b>	すべてのデバッグをイネーブルにします。
<b>application</b>	アプリケーション ファイル。 <ul style="list-style-type: none"> <li><i>all</i> : すべてのアプリケーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。</li> <li><i>install</i> : アプリケーションのインストールのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。</li> <li><i>operation</i> : アプリケーション操作のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。</li> <li><i>uninstall</i> : アプリケーションのアンインストールのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。</li> </ul>
<b>backup-restore</b>	ファイルをバックアップおよび復元します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><i>all</i> : バックアップおよび復元で、すべてのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。</li> <li><i>backup</i> : バックアップおよび復元で、バックアップのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。</li> <li><i>backup-logs</i> : バックアップおよび復元で、バックアップ ログのデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。</li> <li><i>history</i> : バックアップおよび復元で、履歴のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。</li> <li><i>restore</i> : バックアップおよび復元で、復元のデバッグ出力をイネーブルにします。0～7の間でレベルを設定します。0は重大、7はすべてです。</li> </ul>

<b>cdp</b>	<p>Cisco Discovery Protocol (CDP) コンフィギュレーション ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>all</i> : すべての Cisco Discovery Protocol コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</li> <li>• <i>config</i> : Cisco Discovery Protocol のコンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</li> <li>• <i>infra</i> : Cisco Discovery Protocol のインフラストラクチャのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</li> </ul>
<b>config</b>	<p>コンフィギュレーション ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>all</i> : すべてのコンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</li> <li>• <i>backup</i> : バックアップ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</li> <li>• <i>clock</i> : クロック コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</li> <li>• <i>infra</i> : コンフィギュレーション インフラストラクチャのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</li> <li>• <i>kron</i> : コマンド スケジューラ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</li> <li>• <i>network</i> : ネットワーク コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</li> <li>• <i>repository</i> : リポジトリ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</li> <li>• <i>service</i> : サービス コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</li> </ul>
<b>icmp</b>	<p>インターネット制御メッセージ プロトコル (ICMP) エコー応答のコンフィギュレーション。</p> <p><i>all</i> : ICMP エコー応答のコンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</p>
<b>copy</b>	<p>コピー コマンド。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</p>

<b>locks</b>	<p>リソース ロッキング。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><i>all</i> : すべてのリソース ロッキングのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</li> <li><i>file</i> : ファイル ロッキングのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</li> </ul>
<b>logging</b>	<p>ロギング コンフィギュレーション ファイル。</p> <p><i>all</i> : すべてのロギング コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</p>
<b>snmp</b>	<p>SNMP コンフィギュレーション ファイル。</p> <p><i>all</i> : すべての SNMP コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</p>
<b>system</b>	<p>システム ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><i>all</i> : すべてのシステム ファイルのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</li> <li><i>id</i> : システム ID のデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</li> <li><i>info</i> : システム情報のデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</li> <li><i>init</i> : システムの初期化のデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</li> </ul>
<b>transfer</b>	<p>ファイル転送。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</p>
<b>user</b>	<p>ユーザ管理。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><i>all</i> : すべてのユーザ管理のデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</li> <li><i>password-policy</i> : パスワードポリシーのユーザ管理のデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</li> </ul>
<b>utils</b>	<p>ユーティリティ コンフィギュレーション ファイル。</p> <p><i>all</i> : すべてのユーティリティ コンフィギュレーションのデバッグ出力をイネーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</p>

**デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

**コマンドモード**

EXEC

**使用上のガイドライン**

セットアップ エラーやコンフィギュレーション エラーなど、Cisco NCS サーバ内のさまざまなエラーを識別するには、**debug** コマンドを使用します。

## 例

```

ncs/admin# debug all
ncs/admin# mkdir disk:/1
ncs/admin# 6 [15347]: utils: vsh_root_stubs.c[2742] [admin]: mkdir operation success

ncs/admin# rmdir disk:/1
6 [15351]: utils: vsh_root_stubs.c[2601] [admin]: Invoked Remove Directory disk:/1 command
6 [15351]: utils: vsh_root_stubs.c[2663] [admin]: Remove Directory operation success
ncs/admin#

ncs/admin# undebug all
ncs/admin#

```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">undebug</a>	さまざまなコマンドの状況で、 <b>debug</b> コマンドの出力（エラーまたはイベントの表示）をディセーブルにします。

## delete

Cisco NCS サーバからファイルを削除するには、EXEC モードで **delete** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**delete filename [disk:/path]**

## 構文の説明

<i>filename</i>	ファイル名。80 文字までの英数字で指定します。
<i>disk:/path</i>	場所。

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

EXEC

## 使用上のガイドライン

コンフィギュレーション ファイルまたはイメージを削除しようとする、削除を確認するためのプロンプトが表示されます。また、有効な最後のシステム イメージを削除しようとした場合も、削除を確認するためのプロンプトが表示されます。

## 例

```

ncs/admin# delete disk:/hs_err_pid19962.log
ncs/admin#

```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">dir</a>	Cisco NCS サーバ上のすべてのファイルを一覧表示します。

## dir

Cisco NCS サーバ上のファイルを一覧表示するには、EXEC モードで **dir** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**dir** [*word*] [**recursive**]

構文の説明	
<i>word</i>	ディレクトリ名。80 文字までの英数字で指定します。ディレクトリ名の前には <b>disk:/</b> を指定する必要があります。
<b>recursive</b>	ローカル ディレクトリまたはファイル名を再帰的に一覧表示します。

**デフォルト** デフォルトの動作や値はありません。

**コマンドモード** EXEC

**使用上のガイドライン** なし。

### 例

#### 例 1

```
ncs/admin# dir

Directory of disk:/

 2034113 Aug 05 2010 19:58:39 ADElogs.tar.gz
    4096 Jun 10 2010 02:34:03 activemq-data/
    4096 Aug 04 2010 23:14:53 logs/
 16384 Jun 09 2010 02:59:34 lost+found/
2996022 Aug 05 2010 19:11:16 mybackup-100805-1910.tar.gz
    4096 Aug 04 2010 23:15:20 target/
    4096 Aug 05 2010 12:25:55 temp/

Usage for disk: filesystem
      8076189696 bytes total used
      6371618816 bytes free
      15234142208 bytes available

ncs/admin#
```

#### 例 2

```
ncs/admin# dir disk:/logs

0 Aug 05 2010 11:53:52 usermgmt.log

Usage for disk: filesystem
      8076189696 bytes total used
      6371618816 bytes free
      15234142208 bytes available

ncs/admin#
```

**例 3**

```
ncs/admin# dir recursive
```

```
Directory of disk:/
```

```
 2034113 Aug 05 2010 19:58:39 ADElogs.tar.gz
 2996022 Aug 05 2010 19:11:16 mybackup-100805-1910.tar.gz
   4096 Aug 04 2010 23:14:53 logs/
   4096 Aug 05 2010 12:25:55 temp/
   4096 Jun 10 2010 02:34:03 activemq-data/
   4096 Aug 04 2010 23:15:20 target/
  16384 Jun 09 2010 02:59:34 lost+found/
```

```
Directory of disk:/logs
```

```
   0 Aug 05 2010 11:53:52 usermgmt.log
```

```
Directory of disk:/temp
```

```
   281 Aug 05 2010 19:12:45 RoleBundles.xml
  6631 Aug 05 2010 19:12:34 PipDetails.xml
   69 Aug 05 2010 19:12:45 GroupRoles.xml
   231 Aug 05 2010 19:12:34 ApplicationGroupTypes.xml
 544145 Aug 05 2010 19:12:35 ResourceTypes.xml
  45231 Aug 05 2010 19:12:45 UserTypes.xml
   715 Aug 05 2010 19:12:34 ApplicationGroups.xml
   261 Aug 05 2010 19:12:34 ApplicationTypes.xml
   1010 Aug 05 2010 19:12:34 Pdps.xml
1043657 Aug 05 2010 19:12:44 Groups.xml
 281003 Aug 05 2010 19:12:38 Resources.xml
   69 Aug 05 2010 19:12:45 GroupUsers.xml
  2662 Aug 05 2010 19:12:44 RoleTypes.xml
   79 Aug 05 2010 19:12:34 UserStores.xml
  4032 Aug 05 2010 19:12:38 GroupTypes.xml
  1043 Aug 05 2010 19:12:34 Organization.xml
 58377 Aug 05 2010 19:12:46 UserRoles.xml
   300 Aug 05 2010 19:12:45 Contexts.xml
   958 Aug 05 2010 19:12:34 Applications.xml
 28010 Aug 05 2010 19:12:45 Roles.xml
122761 Aug 05 2010 19:12:45 Users.xml
```

```
Directory of disk:/activemq-data
```

```
   4096 Jun 10 2010 02:34:03 localhost/
```

```
Directory of disk:/activemq-data/localhost
```

```
   0 Jun 10 2010 02:34:03 lock
  4096 Jun 10 2010 02:34:03 journal/
  4096 Jun 10 2010 02:34:03 kr-store/
  4096 Jun 10 2010 02:34:03 tmp_storage/
```

```
Directory of disk:/activemq-data/localhost/journal
```

```
 33030144 Aug 06 2010 03:40:26 data-1
   2088 Aug 06 2010 03:40:26 data-control
```

```
Directory of disk:/activemq-data/localhost/kr-store
```

```
   4096 Aug 06 2010 03:40:27 data/
   4096 Aug 06 2010 03:40:26 state/
```

```
Directory of disk:/activemq-data/localhost/kr-store/data
```

## EXEC コマンド

```

102 Aug 06 2010 03:40:27 index-container-roots
  0 Aug 06 2010 03:40:27 lock

Directory of disk:/activemq-data/localhost/kr-store/state

 3073 Aug 06 2010 03:40:26 hash-index-store-state_state
   51 Jul 20 2010 21:33:33 index-transactions-state
  204 Aug 06 2010 03:40:26 index-store-state
  306 Jun 10 2010 02:34:03 index-kaha
  290 Jun 10 2010 02:34:03 data-kaha-1
71673 Aug 06 2010 03:40:26 data-store-state-1
   0 Jun 10 2010 02:34:03 lock

Directory of disk:/activemq-data/localhost/tmp_storage

No files in directory

Directory of disk:/target

 4096 Aug 04 2010 23:15:20 logs/

Directory of disk:/target/logs

   0 Aug 04 2010 23:15:20 ProfilerPDP.log
 2208 Aug 05 2010 11:54:26 ProfilerSensor.log

Directory of disk:/lost+found

No files in directory

Usage for disk: filesystem
 8076189696 bytes total used
 6371618816 bytes free
15234142208 bytes available

ncs/admin#

```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">delete</a>	Cisco NCS サーバからファイルを削除します。

## exit

Cisco NCS サーバからログアウトさせることで、アクティブなターミナルセッションを終了するか、コンフィギュレーション モードから 1 つ上のモード レベルに移行するには、EXEC モードで **exit** コマンドを使用します。

**exit**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。



コマンドモード EXEC

**使用上のガイドライン** EXEC モードで **exit** コマンドを使用して、(Cisco NCS サーバをログアウトすることで) アクティブなセッションを終了するか、コンフィギュレーション モードから上のモードに移行します。

**例** ncs/admin# **exit**

### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>end</b>	コンフィギュレーション モードを終了します。
<b>exit</b>	コンフィギュレーション モードまたは EXEC モードを終了します。
<b>Ctrl+z</b>	コンフィギュレーション モードを終了します。

## forceout

ユーザを Cisco NCS サーバからログアウトさせることで、アクティブなターミナルセッションを強制的に終了させるには、EXEC モードで **forceout** コマンドを使用します。

**forceout** *username*

### 構文の説明

<i>username</i>	ユーザの名前。最大 31 文字の英数字。
-----------------	----------------------

### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード EXEC

**使用上のガイドライン** EXEC モードで **forceout** コマンドを使用して、ユーザのアクティブなセッションを強制的に終了させます。

**例** ncs/admin# **forceout user1**  
ncs/admin#

## halt

システムをシャットダウンしてシステムの電源を切るには、EXEC モードで **halt** コマンドを使用します。

**halt**

## EXEC コマンド

## 構文の説明

引数やキーワードはありません。

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

EXEC

## 使用上のガイドライン

**halt** コマンドを入力する前に、Cisco NCS が、バックアップ、復元、インストール、アップグレード、または削除操作を実行中でないことを確認します。Cisco NCS がこれらのいずれかの操作を行っている間に **halt** コマンドを入力すると、次のいずれかの警告メッセージが表示されます。

```
WARNING: A backup or restore is currently in progress! Continue with halt?
```

```
WARNING: An install/upgrade/remove is currently in progress! Continue with halt?
```

これらのいずれかの警告が表示された場合、操作を停止するには **YES** と入力し、停止をキャンセルするには **NO** と入力します。

**halt** コマンドの使用時にプロセスが実行されていない場合、または表示される警告メッセージに応じて **Yes** と入力すると、Cisco NCS によって、次のオプションに対する対応を尋ねられます。

```
Do you want to save the current configuration ?
```

**YES** と入力して、既存の Cisco NCS コンフィギュレーションを保存します。Cisco NCS には、次のメッセージが表示されます。

```
Saved the running configuration to startup successfully
```

## 例

```
ncs/admin# halt
ncs/admin#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>reload</b>	システムをリブートします。

## mkdir

Cisco NCS サーバに新しいディレクトリを作成するには、EXEC モードで **mkdir** コマンドを使用します。

```
mkdir directory-name [disk:/path]
```

## 構文の説明

<i>directory-name</i>	作成するディレクトリの名前。80 文字までの英数字で指定します。
<i>disk:/path</i>	ディレクトリ名には <i>disk:/path</i> の形式を使用します。

**デフォルト** デフォルトの動作や値はありません。

**コマンドモード** EXEC

**使用上のガイドライン** ディレクトリ名には *disk:/path* の形式を使用します。そうでなければ、*disk:/path* の指定が必要であることを示すエラーが表示されます。

**例**

```
ncs/admin# mkdir disk:/test
ncs/admin# dir

Directory of disk:/

   4096 May 06 2010 13:34:49  activemq-data/
   4096 May 06 2010 13:40:59  logs/
  16384 Mar 01 2010 16:07:27  lost+found/
   4096 May 06 2010 13:42:53  target/
   4096 May 07 2010 12:26:04  test/

Usage for disk: filesystem
      181067776 bytes total used
      19084521472 bytes free
      20314165248 bytes available

ncs/admin#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">dir</a>	NCS サーバ上のファイルを一覧表示します。
<a href="#">rmdir</a>	既存のディレクトリを削除します。

## ncs start

NCS サーバを起動するには、**ncs start** コマンドを使用します。コンソールにメッセージを表示するには、**ncs start verbose** コマンドを使用します。

**ncs start [verbose]**

### 構文の説明

<b>verbose</b>	起動プロセス中に詳細なメッセージが表示されます。
----------------	--------------------------

**デフォルト** デフォルトの動作や値はありません。

**コマンドモード** EXEC

## 例

次に、NCS サーバを起動する例を示します。

```
> ncs start verbose
Starting Network Control System...

Starting Health Monitor
Starting Health Monitor as a primary
Checking for Port 8082 availability... OK
Starting Health Montior Web Server...
Health Monitor Web Server Started.
Starting Health Monitor Server...
Health Monitor Server Started.
Starting Service Name: Reporting
Starting dependency service: NMS Server
Starting dependency service: Matlab
Starting remoting: Matlab Server
Checking for Port 20555 availability... OK
Remoting Service Matlab Server application root: /opt/CSCOncs
Starting Remoting Service Web Server Matlab Server...
Remoting Service Web Server Matlab Server Started.
Starting Remoting Service Matlab Server...
Remoting 'Matlab Server' started successfully.
Starting dependency service: Ftp
Starting remoting: Ftp Server
Checking for Port 20558 availability... OK
Starting up FTP server
Started FTP
FTP Server started
Remoting Service Ftp Server application root: /opt/CSCOncs
Starting Remoting Service Web Server Ftp Server...
Remoting Service Web Server Ftp Server Started.
Starting Remoting Service Ftp Server...
Remoting 'Ftp Server' started successfully.
Starting dependency service: Tftp
Starting remoting: Tftp Server
Checking for Port 20559 availability... OK
Starting up TFTP server...
TFTP Server started.
Remoting Service Tftp Server application root: /opt/CSCOncs
Starting Remoting Service Web Server Tftp Server...
Remoting Service Web Server Tftp Server Started.
Starting Remoting Service Tftp Server...
Remoting 'Tftp Server' started successfully.
Starting NMS Server
Checking for running servers.
  Checking if DECAP is running.
  00:00 DECAP is not running.
00:00 Check complete. No servers running.
  00:10 DECAP setup complete.
Starting Server ...
Reporting started successfully

Starting Service Name: Ftp
Ftp is already running.

Starting Service Name: Database
00:40 Server started.
00:40 DONE
Done
Database is already running.

Starting Service Name: Tftp
Tftp is already running.
```

```
Starting Service Name: Matlab
Matlab is already running.

Starting Service Name: NMS Server
NMS Server is already running.

Network Control System started successfully.
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>ncs stop</code>	NCS サーバを停止します。
<code>ncs status</code>	NCS サーバの現在のステータスを表示します。

## ncs stop

NCS サーバを停止するには、**ncs stop** コマンドを使用します。詳細なメッセージを表示するには、**ncs stop verbose** コマンドを使用します。

**ncs stop [verbose]**

## 構文の説明

<b>verbose</b>	停止プロセス中に詳細なメッセージが表示されます。
----------------	--------------------------

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

EXEC

## 例

次に、NCS サーバを停止する例を示します。

```
> ncs stop verbose
Stopping Network Control System...
Stopping Network Control System server
Stopping Service Name: Reporting
Stopping Reporting
Reporting successfully shutdown.
Stopping Service Name: Ftp
Stopping NMS Server
Stopping Reporting Server(XMP) ..DONE
NMS Server successfully shutdown.

Stopping remoting: Ftp Server
Stopping FTP server...
Stopped FTP server.
Stopping Remoting Web Server Ftp Server...
Remoting Web Server Ftp Server stopped.
```

## EXEC コマンド

```

Remoting 'Ftp Server' stopped successfully.
Stopping Service Name: Database
Shutting down database server ...
Stopping XMP ....DONE

Stopping Service Name: Tftp
Stopping remoting: Tftp Server
Stopping TFTP server...
Stopped TFTP server.
Stopping Remoting Web Server Tftp Server...
Remoting Web Server Tftp Server stopped.
Remoting 'Tftp Server' stopped successfully.
Stopping Service Name: Matlab
Stopping remoting: Matlab Server
Stopping Remoting Web Server Matlab Server...
Remoting Web Server Matlab Server stopped.
Warning: latest version of matlab app-defaults file not found.
Contact your system administrator to have this file installed.
Remoting 'Matlab Server' stopped successfully.

Stopping Service Name: NMS Server
NMS Server is not running.
Stopping Tomcat...
Tomcat Stopped.

Network Control System successfully shutdown.

```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">ncs start</a>	NCS サーバを起動します。
<a href="#">ncs status</a>	NCS サーバの現在のステータスを表示します。

## ncs status

NCS サーバ ステータスを表示するには、**ncs status** コマンドを使用します。

**ncs status**

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

EXEC

**例** 次に、NCS サーバのステータスを表示する例を示します。

```
> ncs status
Health Monitor Server is running.
Reporting is running.
Ftp Server is Success
Database server is running
Tftp Server is Success
Matlab Server is Success
NMS Server is running.
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>ncs start</code>	NCS サーバを起動します。
<code>ncs stop</code>	NCS サーバを停止します。

## ncs migrate

NCS サーバ データベースに WCS データを移行するには、**ncs migrate** コマンドを使用します。

**ncs migrate wcs-data filename repository repositoryname**

## 構文の説明

<b>wcs-data</b>	
<i>filename</i>	アーカイブされた WCS データ ファイル。ファイル名には、512 文字までの英数字を使用できます。
<b>repository</b>	
<i>repositoryname</i>	アーカイブされた WCS データ ファイルがホストされている NCS で設定されたリポジトリ名。

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

EXEC モード

**例** 次に、アーカイブされた WCS ファイルを NCS サーバに移行する例を示します。

```
> ncs migrate wcs-data wcs.zip repository wcs-ftp-repo
```



(注)

- 「**ncs stop**」コマンドを使用して、NCS サーバを停止します。
- DB や NCS サーバを複数回再起動する必要があります。

- 「**show repository repositoryname**」コマンドを実行して、リポジトリ サーバが到達可能であり、wcs データの zip ファイルがリポジトリ サーバに存在するかどうかを確認します。
- このリリースでは、リポジトリとして SFTP/FTP/Local がサポートされています。リポジトリとしての NFS はテストされていない機能です。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">ncs start</a>	NCS サーバを起動します。
<a href="#">ncs stop</a>	NCS サーバを停止します。
<a href="#">ncs status</a>	NCS サーバの現在のステータスを表示します。

## ncs password ftpuser

FTP ユーザ名およびパスワードを変更するには、**ncs password ftpuser username password password** コマンドを使用します。

**ncs password ftpuser username password password**

## 構文の説明

<i>username</i>	ftpuser 名。
<i>password</i>	変更後のパスワード。パスワードに「cisco」または「ocsic」を使用したり、文字の大文字と小文字を変更するか、i を「1」、「 」、または「!」、 「o」を「0」、または「s」を「\$」に置き換えたバリエーションを含めることはできません。

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

EXEC モード

## 例

次に、FTP ユーザ名およびパスワードを変更する例を示します。

```
> ncs password ftpuser
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">ncs start</a>	NCS サーバを開始します。
<a href="#">ncs stop</a>	NCS サーバを停止します。
<a href="#">ncs status</a>	NCS サーバの現在のステータスを表示します。



コマンド	説明
<code>ncs migrate</code>	NCS に古い WCS データを移行します。
<code>ncs password root password</code>	ルート パスワードを変更します。

## ncs password root password

ルート パスワードを変更するには、`ncs password root password` コマンドを使用します。

`ncs password root password password`

### 構文の説明

<i>password</i>	変更後のパスワード。パスワードに「cisco」または「ocsic」を使用したり、文字の大文字と小文字を変更するか、i を「1」、「 」、または「!」、「o」を「0」、または「s」を「\$」に置き換えたバリエーションを含めることはできません。
-----------------	--

### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

EXEC モード

### 例

次に、アーカイブされた WCS ファイルを NCS サーバに移行する例を示します。

```
> ncs password root password Private123
Loading USER - root
Validating new password..
Resetting password ..
Resetting password COMPLETED.
EXECUTION STATUS : Success
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<code>ncs start</code>	NCS サーバを起動します。
<code>ncs stop</code>	NCS サーバを停止します。
<code>ncs status</code>	NCS サーバの現在のステータスを表示します。
<code>ncs migrate</code>	NCS に古い WCS データを移行します。
<code>ncs password ftpuser</code>	FTP ユーザ名およびパスワードを変更します。

## ncs key genkey

新しい RSA キーおよび自己署名証明書を生成するには、**ncs key genkey** コマンドを使用します。

**ncs key genkey -newdn -csr *csrfilename* repository *repositoryname***

### 構文の説明

<b>-newdn</b>	ドメイン情報を使用して新しい RSA キーと自己署名証明書を生成します。
<b>-csr</b>	新しい CSR 証明書ファイルを生成します。
<b>repository</b>	リポジトリ コマンド。
<i>csrfilename</i>	CSR ファイル名
<i>repositoryname</i>	ファイルをバックアップする場所。80 文字までの英数字で指定します。

### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

EXEC モード

### 例

次に、NCS サーバの新しい RSA キーおよび証明書ファイルを生成する例を示します。

```
>ncs key genkey -newdn -csr csrfile.cert repository wcs-sftp-repo
Generating RSA key
INFO: no staging url defined, using local space.          rval:2
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">ncs key importcert</a>	NCS の信頼ストアに CA 証明書を適用します。
<a href="#">ncs key listcacerts</a>	NCS 信頼ストアに存在するすべての CA 証明書をリストします。
<a href="#">ncs key deletecacert</a>	NCS 信頼ストアに存在する CA 証明書を削除します。
<a href="#">ncs key importsigncert</a>	NCS に RSA キーおよび署名付き証明書を適用します。
<a href="#">ncs key importkey</a>	NCS に RSA キーおよび証明書を適用します。



(注)

このコマンドの入力後に、変更を有効にするために、**ncs stop** および **ncs start** コマンドを入力して、NCS サーバを再起動します。

## ncs key importcert

NCS の信頼ストアに CA 証明書を適用するには、**ncs key importcert** コマンドを保存します。

**ncs key importcert *aliasname* *ca-cert-filename* repository *repositoryname***

## 構文の説明

<i>aliasname</i>	この CA 証明書用に指定された短い名前。
<i>ca-cert-filename</i>	CA 証明書のファイル名。
<i>repositoryname</i>	<i>ca-cert-filename</i> がホストされている NCS で設定されたリポジトリ名。

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

EXEC モード

## 例

次に、NCS サーバの信頼ストアに CA 証明書ファイルを適用する例を示します。

```
> ncs key importcacert alias1 cacertfile repository wcs-sftp-repo
```



(注)

このコマンドの適用後に、変更を有効にするために、**ncs stop** および **ncs start** コマンドを入力して、NCS サーバを再起動します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">ncs key genkey</a>	新しい RSA キーおよび自己署名証明書を生成します。
<a href="#">ncs key listcacerts</a>	NCS 信頼ストアに存在するすべての CA 証明書をリストします。
<a href="#">ncs key deletecacert</a>	NCS 信頼ストアに存在する CA 証明書を削除します。
<a href="#">ncs key importsigncert</a>	NCS に RSA キーおよび署名付き証明書を適用します。
<a href="#">ncs key importkey</a>	NCS に RSA キーおよび証明書を適用します。

## ncs key importkey

NCS に RSA キーおよび署名付き証明書を適用するには、**ncs key importkey** コマンドを使用します。

```
ncs key importkey key-filename cert-filename repository repositoryname
```

## 構文の説明

<i>key-filename</i>	RSA 秘密キーのファイル名。
<i>cert-filename</i>	証明書のファイル名。
<i>repositoryname</i>	キーファイルと証明書ファイルがホストされている NCS で設定されたリポジトリ名。

## EXEC コマンド

**デフォルト** デフォルトの動作や値はありません。

**コマンドモード** EXEC モード

**例** 次に、NCS サーバに新しい RSA キーおよび証明書ファイルを適用する例を示します。

```
> ncs key importkey keyfile certfile repository wcs-sftp-repo
```



(注)

このコマンドの適用後に、変更を有効にするために、**ncs stop** および **ncs start** コマンドを入力して、NCS サーバを再起動します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">ncs key genkey</a>	新しい RSA キーおよび自己署名証明書を生成します。
<a href="#">ncs key listcacerts</a>	NCS 信頼ストアに存在するすべての CA 証明書をリストします。
<a href="#">ncs key deletecacert</a>	NCS 信頼ストアに存在する CA 証明書を削除します。
<a href="#">ncs key importsigncert</a>	NCS に RSA キーおよび署名付き証明書を適用します。
<a href="#">ncs key importcacert</a>	NCS の信頼ストアに CA 証明書を適用します。

## ncs key listcacerts

NCS 信頼ストアにあるすべての CA 証明書を表示するには、**ncs key listcacerts** コマンドを使用します。

## ncs key listcacerts

**構文の説明** このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト** デフォルトの動作や値はありません。

**コマンドモード** EXEC モード

**例** 次に、NCS 信頼ストアにあるすべての CA 証明書をリストする例を示します。

```
> ncs key listcacerts
```

```

Certificate utnuserfirsthardwareca from CN=UTN-USERFirst-Hardware,
OU=http://www.example.com, O=The USERTRUST Network, L=Salt Lake City, ST=UT, C=US
Certificate gtecybertrust5ca from CN=GTE CyberTrust Root 5, OU="GTE CyberTrust Solutions,
Inc.", O=GTE Corporation, C=US
Certificate equifaxsecureebusinessca from CN=Equifax Secure eBusiness CA-1, O=Equifax
Secure Inc., C=US
Certificate thawtepersonalfreemailca from EMAILADDRESS=email@example.com, CN=Thawte
Personal Freemail CA, OU=Certification Services Division, O=Thawte Consulting, L=Cape
Town, ST=Western Cape, C=ZA
Certificate addtrustclass1ca from CN=AddTrust Class 1 CA Root, OU=AddTrust TTP Network,
O=AddTrust AB, C=SE
Certificate aolrootca from CN=America Online Root Certification Authority 1, O=America
Online Inc., C=US
Certificate geotrustuniversalca from CN=GeoTrust Universal CA, O=GeoTrust Inc., C=US
Certificate digicertglobalrootca from CN=DigiCert Global Root CA, OU=www.example.com,
O=DigiCert Inc, C=US
Certificate certumtrustednetworkca from CN=Certum Trusted Network CA, OU=Certum
Certification Authority, O=Unizeto Technologies S.A., C=PL
Certificate swissignsilverg2ca from CN=SwissSign Silver CA - G2, O=SwissSign AG, C=CH

```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">ncs key genkey</a>	新しい RSA キーおよび自己署名証明書を生成します。
<a href="#">ncs key importkey</a>	NCS に RSA キーおよび署名付き証明書を適用します。
<a href="#">ncs key deletcacert</a>	NCS 信頼ストアに存在する CA 証明書を削除します。
<a href="#">ncs key importsigncert</a>	NCS に RSA キーおよび署名付き証明書を適用します。
<a href="#">ncs key importcacert</a>	NCS の信頼ストアに CA 証明書を適用します。

## ncs key deletcacert

NCS 信頼ストアにあるすべての CA 証明書を削除するには、**ncs key deletcacert** コマンドを使用します。

**ncs key deletcacert** *aliasname*

### 構文の説明

<i>aliasname</i>	NCS 信頼ストアから削除する必要がある CA 証明書の短い名前またはエイリアス名。
------------------	--

### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

EXEC モード

**例**

次に、NCS 信頼ストアにある CA 証明書を削除する例を示します。

```
> ncs key deletcacert certumtrustednetworkca
Deleting certificate from trust store
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<a href="#">ncs key genkey</a>	新しい RSA キーおよび自己署名証明書を生成します。
<a href="#">ncs key importkey</a>	NCS に RSA キーおよび署名付き証明書を適用します。
<a href="#">ncs key listcacerts</a>	NCS 信頼ストアに存在するすべての CA 証明書をリストします。
<a href="#">ncs key importsigncert</a>	NCS に RSA キーおよび署名付き証明書を適用します。
<a href="#">ncs key importcacert</a>	NCS の信頼ストアに CA 証明書を適用します。

**ncs key importsigncert**

NCS に RSA キーおよび署名付き証明書を適用するには、**ncs key importsigncert** コマンドを使用します。

**ncs key importsigncert *signed-cert-filename* repository repositoryname**

**構文の説明**

<i>signed-cert-filename</i>	署名付き証明書のファイル名。
<i>repositoryname</i>	キー ファイルと証明書ファイルがホストされている NCS で設定されたリポジトリ名。

**デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

**コマンド モード**

EXEC モード

**例**

次に、NCS サーバに署名付き証明書ファイルを適用する例を示します。

```
> ncs key importsigncert signed-certfile repository wcs-sftp-repo
```

**(注)**

このコマンドの適用後に、変更を有効にするために、**ncs stop** および **ncs start** コマンドを入力して、NCS サーバを再起動します。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">ncs key genkey</a>	新しい RSA キーおよび自己署名証明書を生成します。
<a href="#">ncs key importkey</a>	NCS に RSA キーおよび署名付き証明書を適用します。
<a href="#">ncs key deletcacert</a>	NCS 信頼ストアに存在する CA 証明書を削除します。
<a href="#">ncs key listcacerts</a>	NCS 信頼ストアに存在するすべての CA 証明書をリストします。
<a href="#">ncs key importcacert</a>	NCS の信頼ストアに CA 証明書を適用します。

## ncs db sql

NCS 端末から SQL クエリーを実行するには、EXEC モードで **ncs db sql** コマンドを使用します。

```
ncs db sql query_string
```

### 構文の説明

<i>query_string</i>	二重引用符で囲まれた SQL クエリー文字列を入力します。
---------------------	-------------------------------

### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

EXEC モード

### 使用上のガイドライン

このコマンドを正常に実行するには、NCS データベース サーバが動作状態でなければなりません。

### 例

次に、NCS サーバの DB SQL クエリーを実行する例を示します。

```
ncs/admin# ncs db sql "select count(*) from clientcount"
                COUNT(*)
-----
                        75
ncs/admin#
```

## nslookup

Cisco NCS サーバにあるリモート システムのホスト名を検索するには、EXEC モードで **nslookup** コマンドを使用します。

**nslookup** *word*

### 構文の説明

<i>word</i>	リモート システムの IPv4 アドレスまたはホスト名。64 文字までの英数字で指定します。
-------------	--

### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

EXEC

### 例

#### 例 1

```
ncs/admin# nslookup 209.165.200.225
Trying "209.165.200.225.in-addr.arpa"
Received 127 bytes from 171.70.168.183#53 in 1 ms
Trying "209.165.200.225.in-addr.arpa"
Host 209.165.200.225.in-addr.arpa. not found: 3(NXDOMAIN)
Received 127 bytes from 171.70.168.183#53 in 1 ms
```

```
ncs/admin#
```

#### 例 2

```
ncs/admin# nslookup 209.165.200.225
Trying "225.200.165.209.in-addr.arpa"
;; ->>HEADER<<- opcode: QUERY, status: NOERROR, id: 65283
;; flags: qr rd ra; QUERY: 1, ANSWER: 1, AUTHORITY: 2, ADDITIONAL: 0

;; QUESTION SECTION:
;225.200.165.209.in-addr.arpa. IN PTR

;; ANSWER SECTION:
225.200.165.209.in-addr.arpa. 86400 IN PTR 209-165-200-225.got.net.

;; AUTHORITY SECTION:
200.165.209.in-addr.arpa. 86400 IN NS ns1.got.net.
200.165.209.in-addr.arpa. 86400 IN NS ns2.got.net.

Received 119 bytes from 171.70.168.183#53 in 28 ms

ncs/admin#
```



## patch install

**patch install** コマンドは、CLI から **patch install** コマンドを実行する特定のノードだけにアプリケーションのパッチバンドルをインストールします。



(注)

Cisco NCS 分散展開環境では、パッチバンドルがすべてのセカンダリノードで自動的にインストールされるように、Cisco NCS 管理ユーザインターフェイスにプライマリポリシー管理ポイント (PAP) ノードからアプリケーションのパッチバンドルをインストールします。

アプリケーションのパッチバンドルをインストールするには、EXEC モードで **patch** コマンドを使用します。

### **patch install patch-bundle repository**

#### 構文の説明

<i>patch-bundle</i>	パッチバンドルのファイル名。最大 255 文字の英数字で指定します。
<i>repository</i>	リポジトリ名。最大 255 文字の英数字で指定します。

#### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンドモード

EXEC モード

#### 使用上のガイドライン

アプリケーションの特定のパッチバンドルをインストールします。

既存のパッチの古いバージョンであるパッチをインストールしようとする、次のエラーメッセージが表示されます。

```
% Patch to be installed is an older version than currently installed version.
```

#### 例

##### 例 1

```
ncs/admin# patch install ncs-appbundle-1.0.2.054-3.i386.tar.gz myrepository
Do you want to save the current configuration ? (yes/no) [yes] ? yes
Generating configuration...
Saved the running configuration to startup successfully
Initiating Application Patch installation...

Patch successfully installed
ncs/admin#
```

##### 例 2

```
ncs/admin# patch install ncs-appbundle-1.0.2.054-3.i386.tar.gz myrepository
Do you want to save the current configuration ? (yes/no) [yes] ? no
Initiating Application Patch installation...

Patch successfully installed
ncs/admin#
```

**例 3**

```

ncs/admin# patch install ncs-appbundle-1.0.2.054-2.i386.tar.gz disk
Do you want to save the current configuration ? (yes/no) [yes] ? yes
Generating configuration...
Saved the running configuration to startup successfully
Initiating Application Patch installation...
% Patch to be installed is an older version than currently installed version.
ncs/admin#

```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<a href="#">patch remove</a>	アプリケーションの特定のパッチ バンドルのバージョンを削除します。
<a href="#">show version</a>	現在ロードされているソフトウェアのバージョンに関する情報とともに、ハードウェアおよびデバイス情報を表示します。

**patch remove****(注)**

Cisco NCS 分散展開環境では、パッチ バンドルがすべてのセカンダリ ノードから自動的にアンインストールされるように、Cisco NCS 管理ユーザ インターフェイスでプライマリ ポリシー管理ポイント (PAP) ノードからアプリケーションのパッチ バンドルを削除します。

アプリケーションの特定のパッチ バンドルのバージョンを削除するには、EXEC モードで **patch remove** コマンドを使用します。

**patch remove word word**

**構文の説明**

<i>word</i>	パッチが削除されるアプリケーションの名前。最大 255 文字の英数字で指定します。
<i>word</i>	削除するパッチ バージョン番号。最大 255 文字の英数字で指定します。

**デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

**コマンド モード**

EXEC

**使用上のガイドライン**

アプリケーションの特定のパッチ バンドルを削除します。

インストールされていないパッチを削除しようとする、次のエラー メッセージが表示されます。

```
% Patch is not installed
```

## 例

## 例 1

```
ncs/admin# patch remove ncs 3
Continue with application patch uninstall? [y/n] y

Application patch successfully uninstalled
ncs/admin#
```

## 例 2

```
ncs/admin# patch remove ncs 3
Continue with application patch uninstall? [y/n] y

% Patch is not installed
ncs/admin#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">patch install</a>	アプリケーションの特定のパッチ バンドルをインストールします。
<a href="#">show version</a>	現在ロードされているソフトウェアのバージョンに関する情報とともに、ハードウェアおよびデバイス情報を表示します。

## ping

リモート システムとの基本的な IPv4 ネットワーク接続を診断するには、EXEC モードで **ping** コマンドを使用します。

**ping** *{ip-address | hostname}* [**df df**] [**packetsize packetsize**] [**pingcount pingcount**]

## 構文の説明

<i>ip-address</i>	ping を実行するシステムの IP アドレス。32 文字までの英数字で指定します。
<i>hostname</i>	ping を実行するシステムのホスト名。32 文字までの英数字で指定します。
<b>df</b>	パケット フラグメンテーションに関する指定。
<i>df</i>	パケット フラグメンテーションを禁止する場合は、値を <b>1</b> に指定し、ローカルにパケットをフラグメントする場合は <b>2</b> 、DF を設定しない場合は <b>3</b> に指定します。
<b>packetsize</b>	ping パケットのサイズ。
<i>packetsize</i>	ping パケットのサイズを 0 ～ 65507 の範囲の値で指定します。
<b>pingcount</b>	ping エコー要求の数。
<i>pingcount</i>	ping エコー要求の数を 1 ～ 10 の範囲の値で指定します。

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

EXEC

## 使用上のガイドライン

**ping** コマンドは、エコー要求パケットをアドレスに送信して、応答を待ちます。ping 出力は、ホストへのパスの信頼性、パスの遅延、ホストに到達可能かどうかを評価するのに役立ちます。

## 例

```
ncs/admin# ping 172.16.0.1 df 2 packetsize 10 pingcount 2
PING 172.16.0.1 (172.16.0.1) 10(38) bytes of data.
18 bytes from 172.16.0.1: icmp_seq=0 ttl=40 time=306 ms
18 bytes from 172.16.0.1: icmp_seq=1 ttl=40 time=300 ms

--- 172.16.0.1 ping statistics ---
2 packets transmitted, 2 received, 0% packet loss, time 1001ms
rtt min/avg/max/mdev = 300.302/303.557/306.812/3.255 ms, pipe 2
ncs/admin#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">ping6</a>	リモート IPv6 アドレスに ping を実行します。

## ping6

IPv4 **ping** コマンドと似ています。EXEC モードで IPv6 **ping6** コマンドを使用します。

```
ping6 {ip-address | hostname} [GigabitEthernet 0-3][packetsize packetsize] [pingcount pingcount]
```

## 構文の説明

<i>ip-address</i>	ping を実行するシステムの IP アドレス。64 文字までの英数字で指定します。
<i>hostname</i>	ping を実行するシステムのホスト名。64 文字までの英数字で指定します。
<b>GigabitEthernet</b>	イーサネット インターフェイスを選択します。
<b>packetsize</b>	ping パケットのサイズ。
<i>packetsize</i>	ping パケットのサイズを 0 ~ 65507 の範囲の値で指定します。
<b>pingcount</b>	ping エコー要求の数。
<i>pingcount</i>	ping エコー要求の数を 1 ~ 10 の範囲の値で指定します。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

EXEC

## 使用上のガイドライン

IPv6 **ping6** コマンドは、アドレスにエコー要求パケットを送信し、応答を待ちます。ping 出力は、ホストへのパスの信頼性、パスの遅延、ホストに到達可能かどうかを評価するのに役立ちます。

IPv6 **ping6** コマンドは、IPv4 ping fragmentation (IPv4 の **df**) オプションをサポートしない既存の IPv4 ping コマンドと類似していますが、インターフェイスのオプションの指定が可能です。インターフェイス オプションは、主にインターフェイス固有のリンクローカルアドレスとピン接続に役立ちます。packetsize および pingcount オプションは IPv4 コマンドと同様に機能します。

**例****例 1**

```
ncs/admin# ping6 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05
PING 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05(3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05) from
3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 eth0: 56 data bytes
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=0 ttl=64 time=0.599 ms
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=1 ttl=64 time=0.150 ms
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=2 ttl=64 time=0.070 ms
64 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=3 ttl=64 time=0.065 ms

--- 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 ping statistics ---
4 packets transmitted, 4 received, 0% packet loss, time 3118ms
rtt min/avg/max/mdev = 0.065/0.221/0.599/0.220 ms, pipe 2

ncs/admin#
```

**例 2**

```
ncs/admin# ping6 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 GigabitEthernet 0 packetsize 10
pingcount 2
PING 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05(3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05) from
3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 eth0: 10 data bytes
18 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=0 ttl=64 time=0.073 ms
18 bytes from 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05: icmp_seq=1 ttl=64 time=0.073 ms

--- 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05 ping statistics ---
2 packets transmitted, 2 received, 0% packet loss, time 1040ms
rtt min/avg/max/mdev = 0.073/0.073/0.073/0.000 ms, pipe 2

ncs/admin#
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<a href="#">ping</a>	リモート IP アドレスに ping を実行します。

**reload**

Cisco NCS オペレーティング システムをリロードするには、EXEC モードで **reload** コマンドを使用します。

**reload****構文の説明**

引数やキーワードはありません。

**デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード EXEC

## 使用上のガイドライン

**reload** コマンドはシステムをリロードします。コンフィギュレーション情報をファイルに入力して、CLI で永続的なスタートアップ コンフィギュレーションに実行コンフィギュレーションを保存し、Web 管理ユーザ インターフェイス セッションに設定を保存した後で、**reload** コマンドを使用します。

**reload** コマンドを入力する前に、Cisco NCS が、バックアップ、復元、インストール、アップグレード、または削除操作を実行中でないことを確認します。Cisco NCS がこれらのいずれかの操作を行っている間に **reload** コマンドを実行すると、次のいずれかの警告メッセージが表示されます。

```
WARNING: A backup or restore is currently in progress! Continue with reload?
```

```
WARNING: An install/upgrade/remove is currently in progress! Continue with reload?
```

これらのいずれかの警告が表示された場合、操作を停止するには **YES** と入力し、停止をキャンセルするには **NO** と入力します。

**reload** コマンドの使用時にプロセスが実行されていない場合、または表示される警告メッセージに応じて **YES** と入力すると、Cisco NCS によって、次のオプションに対する対応を尋ねられます。

```
Do you want to save the current configuration ?
```

**YES** と入力して、既存の Cisco NCS コンフィギュレーションを保存します。Cisco NCS には、次のメッセージが表示されます。

```
Saved the running configuration to startup successfully
```

## 例

```
ncs/admin# reload
Do you want to save the current configuration ? (yes/no) [yes] ? yes
Generating configuration...
Saved the running configuration to startup successfully
Continue with reboot? [y/n] y

Broadcast message from root (pts/0) (Fri Aug 7 13:26:46 2010):

The system is going down for reboot NOW!

ncs/admin#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>halt</b>	システムをディセーブルにします。

## restore

前回のバックアップを復元するには、EXEC モードで **restore** コマンドを使用します。復元操作は Cisco NCS だけでなく、Cisco ADE OS に関するデータも復元します。Cisco NCS だけのアプリケーションデータの前のバックアップを復元するには、EXEC モードで **application** コマンドを **restore** コマンドに追加します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

Cisco NCS アプリケーションと Cisco ADE OS に関するデータを復元するには、次のコマンドを使用します。

```
restore filename repository repository-name
```

NCS アプリケーションだけに関するデータを復元するには、次のコマンドを使用します。

**restore filename repository repository-name application application**

### 構文の説明

<i>filename</i>	リポジトリに存在するバックアップ ファイルの名前。120 文字までの英数字で指定します。 <b>(注)</b> ファイル名の後に、tar.gpg という拡張子を付ける必要があります (たとえば、myfile.tar.gpg)。
<b>repository</b>	リポジトリのキーワード。
<i>repository-name</i>	バックアップから復元するリポジトリの名前。
<b>application</b>	アプリケーションのキーワード。
<i>application name</i>	復元するアプリケーション データの名前。最大 255 文字の英数字で指定します。

### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

EXEC

### 使用上のガイドライン

Cisco NCS でこれらの 2 つのコマンドを使用すると、Cisco NCS サーバが自動的に再起動します。

### 例

```
ncs/admin# restore mybackup-100818-1502.tar.gpg repository myrepository
Restore may require a reboot to successfully complete. Continue? (yes/no) [yes] ? yes
Stopping NCS Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Stopping NCS Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping NCS Monitoring & Troubleshooting Alert Process...
Stopping NCS Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping NCS Application Server...
Stopping NCS Database processes...
Starting NCS Database processes...
Starting NCS Application Server...
Starting NCS Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Starting NCS Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Starting NCS Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Starting NCS Monitoring & Troubleshooting Alert Process...
Note: NCS Processes are initializing. Use 'show application status ncs'
      CLI to verify all processes are in running state.

Broadcast message from root (pts/0) (Wed Aug 18 15:34:58 2010):

The system is going down for reboot NOW!
ncs/admin# Last login: Wed Aug 18 14:00:27 2010 from 10.77.137.60
ncs/admin# show application status ncs

NCS Database listener is running, PID: 3024
NCS Database is running, number of processes: 34
NCS Application Server is still initializing.
NCS M&T Session Database is running, PID: 2793
NCS M&T Log Collector is running, PID: 3336
NCS M&T Log Processor is running, PID: 3379
```

## EXEC コマンド

```
NCS M&T Alert Process is running, PID: 3442
```

```
ncs/admin#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">backup</a>	バックアップ (Cisco NCS と Cisco ADE OS) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
<a href="#">backup-logs</a>	システム ログをバックアップします。
<a href="#">repository</a>	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。
<a href="#">show repository</a>	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップ ファイルを表示します。
<a href="#">show backup history</a>	システムのバックアップ履歴を表示します。

## rmdir

既存のディレクトリを削除するには、EXEC モードで **rmdir** コマンドを使用します。

```
rmdir word
```

## 構文の説明

<i>word</i>	ディレクトリ名。80 文字までの英数字で指定します。
-------------	----------------------------

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

EXEC

## 例

```
ncs/admin# mkdir disk:/test
ncs/admin# dir

Directory of disk:/

   4096 May 06 2010 13:34:49  activemq-data/
   4096 May 06 2010 13:40:59  logs/
 16384 Mar 01 2010 16:07:27  lost+found/
   4096 May 06 2010 13:42:53  target/
   4096 May 07 2010 12:26:04  test/

Usage for disk: filesystem
    181067776 bytes total used
    19084521472 bytes free
    20314165248 bytes available

ncs/admin#

ncs/admin# rmdir disk:/test
ncs/admin# dir

Directory of disk:/
```



```

4096 May 06 2010 13:34:49 activemq-data/
4096 May 06 2010 13:40:59 logs/
16384 Mar 01 2010 16:07:27 lost+found/
4096 May 06 2010 13:42:53 target/

Usage for disk: filesystem
      181063680 bytes total used
      19084525568 bytes free
      20314165248 bytes available

ncs/admin#

```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">dir</a>	Cisco NCS サーバ上のファイルを一覧表示します。
<a href="#">mkdir</a>	新しいディレクトリを作成します。

## root

ルート シェルを実行するには、EXEC モードで **root** コマンドを使用します。

### root



(注) エンドユーザではなく、開発者による使用専用。



(注) このコマンドおよび `root_enable` コマンドは、Telnet を介してローカルに接続された NCS のコンソールポートだけで使用できます。SSH または Telnet 経由で LAN 上のこのポートにアクセスしようとする、コマンドは拒否され、次のメッセージが表示されます。

```
% Error : root patch only available on a console port.
```

## 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

EXEC

## 使用上のガイドライン

`root_enable` アプリケーションやパッチのインストールが必要です。`root` コマンドは、`root_enable` で使用されるパスワードを求めるプロンプトを表示して、ルート権限で `bash` シェルを開始します。

パスワードにはデフォルトはありません。

パスワードがすでに設定されている場合、`root_enable` コマンドは次のエラーメッセージを生成します。

```
% Error : root patch password already set
```

パスワードが設定されていない場合、`root` コマンドは次のエラー メッセージを生成します。

```
% Error : root patch password not set.
```

**例**

次に、`root` コマンドの使用例を示します。

```
ncs/admin# root
% Error : root patch password not set
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<code>root_enable</code>	<code>root</code> コマンドを起動します。

**root\_enable**

`root` コマンドを起動するには、EXEC モードで `root_enable` コマンドを使用します。

**root\_enable**

(注) エンド ユーザではなく、開発者による使用専用。



(注) このコマンドおよび `root_enable` コマンドは、Telnet を介してローカルに接続された NCS のコンソール ポートだけで使用できます。SSH または Telnet 経由で LAN 上のこのポートにアクセスしようとする、コマンドは拒否され、次のメッセージが表示されます。

```
% Error : root patch only available on a console port.
```

**構文の説明**

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

**デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

**コマンドモード**

EXEC

**使用上のガイドライン**

`root_enable` アプリケーションやパッチのインストールが必要です。`root` コマンドは、`root_enable` で使用されるパスワードを求めるプロンプトを表示して、ルート権限で `bash` シェルを開始します。

パスワードにはデフォルトはありません。

パスワードがすでに設定されている場合、`root_enable` コマンドは次のエラー メッセージを生成します。

```
% Error : root patch password already set
```

パスワードが設定されていない場合、**root** コマンドは次のエラー メッセージを生成します。

```
% Error : root patch password not set
```

## 例

次に、**root\_enable** コマンドの使用例を示します。

```
ncs/admin# root_enable
% Error : root patch password already set
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">root_enable</a>	ルート シェルを実行します。

## show

実行システムの情報を表示するには、EXEC モードで **show** コマンドを使用します。**show** コマンドは、Cisco NCS 設定の表示に使用する、最も便利なコマンドの 1 つです。

表 A-6 のコマンドを使用する場合は、たとえば **show application status** のように、**show** コマンドの後にキーワードを指定する必要があります。一部の **show** コマンドでは、**show application version** のように、キーワードの後に引数または変数を指定する必要があります。

すべての Cisco NCS **show** コマンドの詳細については、「[show コマンド](#)」(P.A-62) を参照してください。

*show keyword*

## 構文の説明

表 A-6 では、**show** コマンドの要約を示します。

表 A-6 show コマンドの要約

コマンド <sup>1</sup>	説明
<b>application</b> (キーワードが必要) <sup>2</sup>	インストールされているアプリケーションに関する情報 (ステータス情報やバージョン情報など) を表示します。
<b>backup</b> (キーワードが必要)	バックアップに関する情報を表示します。
<b>cdp</b> (キーワードが必要)	イネーブルな Cisco Discovery Protocol (CDP) インターフェイスに関する情報を表示します。
<b>clock</b>	システム クロックの曜日、日付、時刻、時間帯、および年を表示します。
<b>cpu</b>	CPU 情報を表示します。
<b>disks</b>	ディスクのファイルシステム情報を表示します。
<b>interface</b>	Cisco ADE OS で設定されたすべてのインターフェイスの統計情報を表示します。
<b>logging</b> (キーワードが必要)	システムのロギング情報を表示します。
<b>logins</b> (キーワードが必要)	ログイン履歴を表示します。

表 A-6 show コマンドの要約 (続き)

コマンド <sup>1</sup>	説明
<b>memory</b>	実行中のすべてのプロセスによるメモリ使用量を表示します。
<b>ntp</b>	ネットワーク タイム プロトコル (NTP) のステータスを表示します。
<b>ports</b>	アクティブなポートを受信するすべてのプロセスを表示します。
<b>process</b>	Cisco NCS サーバのアクティブなプロセスに関する情報を表示します。
<b>repository</b> (キーワードが必要)	特定のレジストリのファイルの内容を表示します。
<b>restore</b> (キーワードが必要)	Cisco NCS サーバの復元履歴を表示します。
<b>running-config</b>	Cisco NCS サーバの現在の実行コンフィギュレーション ファイルの内容を表示します。
<b>startup-config</b>	Cisco NCS サーバのスタートアップ コンフィギュレーションの内容を表示します。
<b>tech-support</b>	問題を報告するときに、TAC に提供可能なシステム情報およびコンフィギュレーション情報を表示します。
<b>terminal</b>	現在の端末回線の端末コンフィギュレーション パラメータの設定に関する情報を表示します。
<b>timezone</b>	Cisco NCS サーバの時間帯を表示します。
<b>timezones</b>	Cisco NCS サーバで使用可能なすべての時間帯を表示します。
<b>udi</b>	Cisco NCS の Unique Device Identifier (UDI) に関する情報を表示します。
<b>uptime</b>	ログインしているシステムが起動してからの稼動時間を表示します。
<b>users</b>	現在ログインしているユーザの情報を表示します。
<b>version</b>	インストールされているアプリケーションのバージョンに関する情報を表示します。

1. この表にあるコマンドを使用する場合は、たとえば **show application** のように、**show** コマンドの後にキーワードを指定する必要があります。
2. 一部の **show** コマンドでは、**show application version** のように、キーワードの後に引数または変数を指定する必要があります。この **show** コマンドは、システムにインストールされているアプリケーションのバージョンを表示します ([「show application」 \(P.A-62\)](#) を参照)。

**デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

**コマンド モード**

EXEC

**使用上のガイドライン**

すべての **show** コマンドには、機能するために少なくとも 1 つのキーワードが必要です。

**例**

```
ncs/admin# show application
<name>          <Description>
ncs              Cisco Network Control System
ncs/admin#
```

## ssh

リモート システムとの暗号化されたセッションを開始するには、EXEC モードで **ssh** コマンドを使用します。



(注) このコマンドは、Admin でも Operator (ユーザ) でも使用できます (表 1-1 を参照)。

**ssh** [*ip-address* | *hostname*] *username* **port** [*number*] **version** [1 | 2] **delete** *hostkey* *word*

### 構文の説明

<i>ip-address</i>	リモート システムの IP アドレス。64 文字までの英数字で指定します。
<i>hostname</i>	リモート システムのホスト名。64 文字までの英数字で指定します。
<i>username</i>	SSH を介してログインしているユーザのユーザ名。
<b>port</b> [ <i>number</i> ]	(オプション) リモート ホストのポート番号を示します。0 ~ 65,535 の範囲で指定します。デフォルトは 22 です。
<b>version</b> [1   2]	(オプション) バージョン番号を示します。デフォルトは 2 です。
<b>delete</b> <i>hostkey</i>	特定のホストの SSH フィンガープリントを削除します。
<i>word</i>	リモート システムの IPv4 アドレスまたはホスト名。64 文字までの英数字で指定します。

### デフォルト

ディセーブル

### コマンド モード

EXEC (Admin または Operator)

### 使用上のガイドライン

**ssh** コマンドは、システムから別のリモート システムまたはサーバへの安全な暗号化された接続を確立します。この接続は、接続が暗号化される点を除いて Telnet のアウトバウンド接続と同様の機能を提供します。SSH クライアントは、認証および暗号化により、非セキュアなネットワーク上でセキュアな通信ができます。

### 例

#### 例 1

```
ncs/admin# ssh ncs1 admin
admin@ncs1's password:
Last login: Wed Jul 11 05:53:20 2008 from ncs.cisco.com

ncs1/admin#
```

#### 例 2

```
ncs/admin# ssh delete host ncs
ncs/admin#
```

## tech dumptcp

伝送制御プロトコル (TCP) パッケージをコンソールにダンプするには、EXEC モードで **tech dumptcp** コマンドを使用します。

**tech dumptcp gigabit-ethernet**

構文の説明	<i>gigabit-ethernet</i>	ギガビット イーサネット インターフェイスの番号で、0 または 1。
-------	-------------------------	------------------------------------

デフォルト	ディセーブル
-------	--------

コマンドモード	EXEC
---------	------

**例**

```

ncs/admin# tech dumptcp 0
140816:141088(272) ack 1921 win 14144
08:26:12.034630 IP NCS.cisco.com.ssh > dhcp-64-102-82-153.cisco.com.2221: P
141088:141248(160) ack 1921 win 14144
08:26:12.034635 IP dhcp-64-102-82-153.cisco.com.2221 > NCS.cisco.com.ssh: . ack 139632 win
64656
08:26:12.034677 IP NCS.cisco.com.ssh > dhcp-64-102-82-153.cisco.com.2221: P
141248:141520(272) ack 1921 win 14144
08:26:12.034713 IP NCS.cisco.com.ssh > dhcp-64-102-82-153.cisco.com.2221: P
141520:141680(160) ack 1921 win 14144
08:26:12.034754 IP NCS.cisco.com.ssh > dhcp-64-102-82-153.cisco.com.2221: P
141680:141952(272) ack 1921 win 14144
08:26:12.034756 IP dhcp-64-102-82-153.cisco.com.2221 > NCS.cisco.com.ssh: . ack 140064 win
65520
08:26:12.034796 IP NCS.cisco.com.ssh > dhcp-64-102-82-153.cisco.com.2221: P
141952:142112(160) ack 1921 win 14144
1000 packets captured
1000 packets received by filter
0 packets dropped by kernel
ncs/admin#

```

## telnet

Telnet をサポートしているホストにログインするには、Operator (ユーザ) または EXEC モードで **telnet** コマンドを使用します。

**telnet [ip-address | hostname] port number**

構文の説明	<i>ip-address</i>	リモートシステムの IP アドレス。64 文字までの英数字で指定します。
	<i>hostname</i>	リモートシステムのホスト名。64 文字までの英数字で指定します。
	<i>port number</i>	(オプション) リモートホストのポート番号を示します。0 ~ 65,535 の範囲で指定します。

**デフォルト** デフォルトの動作や値はありません。

**コマンド モード** Operator  
EXEC

**例**

```
ncs/admin# telnet 172.16.0.11 port 23
ncs.cisco.com login: admin
password:
Last login: Mon Jul  2 08:45:24 on ttyS0
ncs/admin#
```

## terminal length

現在のセッションでの現在の端末画面の行数を設定するには、EXEC モードで **terminal length** コマンドを使用します。

**terminal length** *integer*

<b>構文の説明</b>	<i>integer</i>	画面の行数。0 ~ 511 行までの範囲で指定します。ゼロ (0) の値を指定すると、出力画面間での一時停止がディセーブルになります。
--------------	----------------	---

**デフォルト** 24 行

**コマンド モード** EXEC

**使用上のガイドライン** システムは length の値を使用して、複数画面の出力時に一時停止するタイミングを決定します。

**例**

```
ncs/admin# terminal length 0
ncs/admin#
```

## terminal session-timeout

すべてのセッションに対する非アクティブ タイムアウトを設定するには、EXEC モードで **terminal session-timeout** コマンドを使用します。

**terminal session-timeout** *minutes*

## EXEC コマンド

構文の説明	<i>minutes</i>	非アクティブ タイムアウトの分数を設定します。有効な範囲は、0 ～ 525,600 です。ゼロ (0) を指定するとタイムアウトがディセーブルになります。
-------	----------------	---

デフォルト 30 分

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン **terminal session-timeout** コマンドをゼロ (0) に設定すると、タイムアウトが設定されません。

例  

```
ncs/admin# terminal session-timeout 40
ncs/admin#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<a href="#">terminal session-welcome</a>	システムにログインするすべてのユーザに表示されるウェルカム メッセージをシステムに設定します。

## terminal session-welcome

システムにログインするすべてのユーザに表示されるウェルカム メッセージをシステムに設定するには、EXEC モードで **terminal session-welcome** コマンドを使用します。

**terminal session-welcome** *string*

構文の説明	<i>string</i>	ウェルカム メッセージ。2,048 文字未満の英数字で指定します。
-------	---------------	-----------------------------------

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン 2,048 文字未満のメッセージを指定します。

例  

```
ncs/admin# terminal session-welcome Welcome
ncs/admin#
```



関連コマンド	コマンド	説明
	<code>terminal session-timeout</code>	すべてのセッションに対して、非アクティブ タイムアウトを設定します。

## terminal terminal-type

現在のセッションの現在の回線に接続される端末のタイプを指定するには、EXEC モードで **terminal terminal-type** コマンドを使用します。

**terminal terminal-type** *type*

構文の説明	<i>type</i>	説明
		端末の名前とタイプを定義し、そのタイプ オブ サービスを提供するホストによる端末ネゴシエーションを許可します。80 文字までの英数字で指定します。

デフォルト VT100

コマンド モード EXEC

使用上のガイドライン デフォルトの VT100 と異なる場合、端末タイプを示します。

例

```
ncs/admin# terminal terminal-type vt220
ncs/admin#
```

## traceroute

パケットが宛先のアドレスに送信されるときに実際に通るルートを検出するには、EXEC モードで **traceroute** コマンドを使用します。

**traceroute** [*ip-address* | *hostname*]

構文の説明	<i>ip-address</i>	説明
		リモート システムの IP アドレス。32 文字までの英数字で指定します。
	<i>hostname</i>	リモート システムのホスト名。32 文字までの英数字で指定します。

デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード EXEC

## 例

```
ncs/admin# traceroute 172.16.0.11
traceroute to 172.16.0.11 (172.16.0.11), 30 hops max, 38 byte packets
 1 172.16.0.11 0.067 ms 0.036 ms 0.032 ms

ncs/admin#
```

## undebug

デバッグ機能をディセーブルにするには、EXEC モードで **undebug** コマンドを使用します。

**undebug {all | application | backup-restore | cdp | config | copy | icmp | locks | logging | snmp | system | transfer | user | utils}**

### 構文の説明

<b>all</b>	すべてのデバッグをディセーブルにします。
<b>application</b>	アプリケーション ファイル。 <ul style="list-style-type: none"> <li><i>all</i> : すべてのアプリケーションのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li><i>install</i> : アプリケーションのインストールのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li><i>operation</i> : アプリケーションの操作のデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li><i>uninstall</i> : アプリケーションのアンインストールのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> </ul>
<b>backup-restore</b>	ファイルをバックアップおよび復元します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><i>all</i> : バックアップおよび復元で、すべてのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li><i>backup</i> : バックアップおよび復元で、バックアップのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li><i>backup-logs</i> : バックアップおよび復元で、バックアップ ログのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li><i>history</i> : バックアップおよび復元で、履歴のデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li><i>restore</i> : バックアップおよび復元で、復元のデバッグ出力をディセーブルにします。</li> </ul>
<b>cdp</b>	Cisco Discovery Protocol (CDP) コンフィギュレーション ファイル。 <ul style="list-style-type: none"> <li><i>all</i> : すべての Cisco Discovery Protocol コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li><i>config</i> : Cisco Discovery Protocol のコンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li><i>infra</i> : Cisco Discovery Protocol のインフラストラクチャのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> </ul>

<b>config</b>	<p>コンフィギュレーション ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>all</i> : すべてのコンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li>• <i>backup</i> : バックアップ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li>• <i>clock</i> : クロック コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li>• <i>infra</i> : コンフィギュレーション インフラストラクチャのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li>• <i>kron</i> : コマンド スケジューラ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li>• <i>network</i> : ネットワーク コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li>• <i>repository</i> : リポジトリ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li>• <i>service</i> : サービス コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> </ul>
<b>copy</b>	コピー コマンド。
<b>icmp</b>	<p>ICMP エコー応答のコンフィギュレーション。</p> <p><i>all</i> : ICMP エコー応答のコンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をディセーブルにします。0 ~ 7 の間でレベルを設定します。0 は重大、7 はすべてです。</p>
<b>locks</b>	<p>リソース ロッキング。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>all</i> : すべてのリソース ロッキングのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li>• <i>file</i> : ファイル ロッキングのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> </ul>
<b>logging</b>	<p>ロギング コンフィギュレーション ファイル。</p> <p><i>all</i> : ロギング コンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をディセーブルにします。</p>
<b>snmp</b>	<p>SNMP コンフィギュレーション ファイル。</p> <p><i>all</i> : SNMP コンフィギュレーションのすべてのデバッグ出力をディセーブルにします。</p>
<b>system</b>	<p>システム ファイル。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>all</i> : すべてのシステム ファイルのデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li>• <i>id</i> : システム ID のデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li>• <i>info</i> : システム情報のデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li>• <i>init</i> : システムの初期化のデバッグ出力をディセーブルにします。</li> </ul>
<b>transfer</b>	ファイル転送。

## EXEC コマンド

<b>user</b>	ユーザ管理。 <ul style="list-style-type: none"> <li><i>all</i> : すべてのユーザ管理のデバッグ出力をディセーブルにします。</li> <li><i>password-policy</i> : パスワードポリシーのユーザ管理のデバッグ出力をディセーブルにします。</li> </ul>
<b>utils</b>	ユーティリティ コンフィギュレーション ファイル。 <i>all</i> : すべてのユーティリティ コンフィギュレーションのデバッグ出力をディセーブルにします。

**デフォルト** デフォルトの動作や値はありません。

**コマンドモード** EXEC

**使用上のガイドライン** なし。

**例**

```
ncs/admin# undebug all
ncs/admin#
```

コマンド	説明
<a href="#">debug</a>	コマンド状況のエラーまたはイベントを表示します。

## write

Cisco NCS サーバ コンフィギュレーションをコピー、表示、または消去するには、適切な引数を指定して EXEC モードで **write** コマンドを使用します。

**write {erase | memory | terminal}**

構文の説明	
<b>erase</b>	スタートアップ コンフィギュレーションを消去します。
<b>memory</b>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
<b>terminal</b>	実行コンフィギュレーションをコンソールにコピーします。

**デフォルト** デフォルトの動作や値はありません。

**コマンドモード** EXEC

## 例

## 例 1

```
ncs/admin# write memory
Generating configuration...
ncs/admin#
```

## 例 2

```
ncs/admin# write terminal

Generating configuration...
!
hostname ncs
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
 ip address 10.201.2.121 255.255.255.0
 ipv6 address autoconfig
!
interface GigabitEthernet 1
 shutdown
!
interface GigabitEthernet 2
 shutdown
!
interface GigabitEthernet 3
 shutdown
!
ip name-server 171.68.226.120
!
ip default-gateway 10.201.2.1
!
clock timezone UTC
!
ntp server clock.cisco.com
!
username admin password hash $1$6yQQaFXM$UBgbp7ggD1bG3kpExywwZ0 role admin
!
service sshd
!
repository myrepository
 url disk:
 user admin password hash 2b50ca94445f240f491e077b5f49fa0375942f38
!
password-policy
 lower-case-required
 upper-case-required
 digit-required
 no-username
 disable-cisco-passwords
 min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
cdp timer 60
cdp holdtime 180
cdp run GigabitEthernet 0
!
icmp echo on
!

ncs/admin#
```

# show コマンド

ここでは、各 **show** コマンドをリストします。各コマンドには、その使用方法の簡単な説明、コマンドのデフォルト、コマンドモード、コマンド構文、使用上のガイドライン、およびコマンドと関連するコマンドの例があります。

表 A-7 に、この項で説明する **show EXEC** コマンドをリストします。

表 A-7 EXEC show コマンドの一覧

<ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">show application</a></li> <li>• <a href="#">show backup history</a></li> <li>• <a href="#">show cdp</a></li> <li>• <a href="#">show clock</a></li> <li>• <a href="#">show cpu</a></li> <li>• <a href="#">show disks</a></li> <li>• <a href="#">show icmp-status</a></li> <li>• <a href="#">show interface</a></li> <li>• <a href="#">show inventory</a></li> <li>• <a href="#">show logging</a></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">show logins</a></li> <li>• <a href="#">show memory</a></li> <li>• <a href="#">show ntp</a></li> <li>• <a href="#">show ports</a></li> <li>• <a href="#">show process</a></li> <li>• <a href="#">show repository</a></li> <li>• <a href="#">show restore</a></li> <li>• <a href="#">show running-config</a></li> <li>• <a href="#">show startup-config</a></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">show tech-support</a></li> <li>• <a href="#">show terminal</a></li> <li>• <a href="#">show timezone</a></li> <li>• <a href="#">show timezones</a></li> <li>• <a href="#">show udi</a></li> <li>• <a href="#">show uptime</a></li> <li>• <a href="#">show users</a></li> <li>• <a href="#">show version</a></li> </ul>
---	---	--

## show application

システムにインストールされているアプリケーションパッケージのアプリケーション情報を表示するには、EXEC モードで **show application** コマンドを使用します。

**show application** [**status** | **version** [*app\_name*]]

### 構文の説明

show application	Cisco NCS アプリケーション情報を表示するコマンド。
status	インストールされているアプリケーションのステータスを表示します。
version	インストールされているアプリケーション (Cisco NCS) のアプリケーションバージョンが表示されます。
<i>app_name</i>	インストールされているアプリケーションの名前。
	出力修飾子変数： <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>begin</i>：一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>count</i>：出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。  ：出力修飾子変数 (表 A-8 を参照)。</li> <li>• <i>end</i>：一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>exclude</i>：一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>include</i>：一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>last</i>：出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。  ：出力修飾子変数 (表 A-8 を参照)。</li> </ul>

表 A-8 Count または Last の出力修飾子変数

	<p>出力修飾子変数：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>begin</i>：一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>count</i>：出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。  ：出力修飾子変数。</li> <li>• <i>end</i>：一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>exclude</i>：一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>include</i>：一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>last</i>：出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。  ：出力修飾子変数。</li> </ul>
--	---

**デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

**コマンドモード**

EXEC

**例****例 1**

```
ncs/admin# show application
<name>          <Description>
ncs              Cisco Network Control System
ncs/admin#
```

**例 2**

```
ncs/admin# show application version ncs
```

```
Cisco Network Control System
-----
Version       : 1.0.2.051
Build Date    : Mon Aug  2 00:34:25 2010
Install Date  : Thu Aug  5 17:48:49 2010

ncs/admin#
```

**例 3**

```
ncs/admin# show application status ncs
```

```
NCS Database listener is running, PID: 21096
NCS Database is running, number of processes: 27
NCS Application Server is running, PID: 21432
NCS M&T Session Database is running, PID: 21365
NCS M&T Log Collector is running, PID: 21468
NCS M&T Log Processor is running, PID: 21494
NCS M&T Alert Process is running, PID: 21524

ncs/admin#
```

## show コマンド

関連コマンド	コマンド	説明
	<a href="#">application install</a>	アプリケーションバンドルをインストールします。
	<a href="#">application remove</a>	アプリケーションを削除またはアンインストールします。
	<a href="#">application start</a>	アプリケーションを起動またはイネーブルにします。
	<a href="#">application stop</a>	アプリケーションを停止またはディセーブルにします。
	<a href="#">application upgrade</a>	アプリケーションバンドルをアップグレードします。

## show backup history

システムのバックアップ履歴を表示するには、EXEC モードで **show backup** コマンドを使用します。

### show backup history

#### 構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

#### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンドモード

EXEC

#### 使用上のガイドライン

なし。

#### 例

##### 例 1

```
ncs/admin# show backup history
Wed Aug 18 12:55:21 UTC 2010: backup logs logs-0718.tar.gz to repository fileserver007:
success
Wed Aug 18 12:55:53 UTC 2010: backup full-0718.tar.gpg to repository fileserver007:
success
ncs/admin#
```

##### 例 2

```
ncs/admin# show backup history
backup history is empty
ncs/admin#
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">backup</a>	バックアップ (Cisco NCS と Cisco ADE OS) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
<a href="#">restore</a>	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。



コマンド	説明
<code>repository</code>	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。
<code>show repository</code>	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップ ファイルを表示します。

## show cdp

イネーブルになっている Cisco Discovery Protocol インターフェイスに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show cdp** コマンドを使用します。

**show cdp {all | neighbors}**

### 構文の説明

<b>all</b>	イネーブルになっているすべての Cisco Discovery Protocol インターフェイスを表示します。
<b>neighbors</b>	Cisco Discovery Protocol ネイバーを示します。

### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

EXEC

### 例

#### 例 1

```
ncs/admin# show cdp all
CDP protocol is enabled ...
    broadcasting interval is every 60 seconds.
    time-to-live of cdp packets is 180 seconds.

    CDP is enabled on port GigabitEthernet0.
ncs/admin#
```

#### 例 2

```
ncs/admin# show cdp neighbors
CDP Neighbor : 000c297840e5
    Local Interface      : GigabitEthernet0
    Device Type          : L-NCS-1.0-50
    Port                 : eth0
    Address               : 172.23.90.114

CDP Neighbor : isexp-esw5
    Local Interface      : GigabitEthernet0
    Device Type          : cisco WS-C3560E-24TD
    Port                 : GigabitEthernet0/5
    Address               : 172.23.90.45

CDP Neighbor : 000c29e29926
    Local Interface      : GigabitEthernet0
    Device Type          : L-NCS-1.0-50
    Port                 : eth0
    Address               : 172.23.90.115
```

## show コマンド

```

CDP Neighbor : 000c290fba98
  Local Interface : GigabitEthernet0
  Device Type    : L-NCS-1.0-50
  Port           : eth0
  Address        : 172.23.90.111

```

```
ncs/admin#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">cdp holdtime</a>	受信デバイスがルータから受け取った Cisco Discovery Protocol パケットを廃棄するまでにそれを保持する時間を指定します。
<a href="#">cdp run</a>	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。
<a href="#">cdp timer</a>	Cisco NCS サーバが Cisco Discovery Protocol (CDP) の更新を送信する頻度を指定します。

## show clock

システム ソフトウェア クロックの曜日、月、日付、時間、時間帯、および年を表示するには、EXEC モードで **show clock** コマンドを使用します。

**show clock**

## 構文の説明

引数やキーワードはありません。

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

EXEC

## 例

```

ncs/admin# show clock
Fri Aug 6 10:46:39 UTC 2010
ncs/admin#

```



(注) 上の例の **show clock** の出力には、協定世界時 (UTC) またはグリニッジ標準時 (GMT)、英国時間、ズールー時間が含まれています (サンプルの時間帯については、A-84 および A-85 ページの A-16、A-17、A-18 の各表を参照)。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">clock</a>	表示用のシステム クロックを設定します。

## show cpu

CPU 情報を表示するには、EXEC モードで **show cpu** コマンドを使用します。

**show cpu** [*statistics*] [[]] [[]]

### 構文の説明

<i>statistics</i>	CPU 統計情報を表示します。
	出力修飾子変数 : <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>begin</i> : 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。   : 出力修飾子変数 (表 A-9 を参照)。</li> <li>• <i>end</i> : 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>include</i> : 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。   : 出力修飾子変数 (表 A-9 を参照)。</li> </ul>

表 A-9 Count または Last の出力修飾子変数

	出力修飾子変数 : <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>begin</i> : 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。   : 出力修飾子変数。</li> <li>• <i>end</i> : 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>include</i> : 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。   : 出力修飾子変数。</li> </ul>
--	---

### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

EXEC

## 例

## 例 1

```
ncs/admin# show cpu

processor : 0
model    : Intel(R) Xeon(R) CPU           E5320  @ 1.86GHz
speed(MHz): 1861.914
cache size: 4096 KB

ncs/admin#
```

## 例 2

```
ncs/admin# show cpu statistics
user time:          265175
kernel time:       166835
idle time:         5356204
i/o wait time:     162676
irq time:          4055

ncs/admin#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">show disks</a>	すべてのディスクのシステム情報を表示します。
<a href="#">show memory</a>	使用されているシステムメモリの量をシステムプロセス別に表示します。

## show disks

ディスクのファイルシステム情報を表示するには、EXEC モードで **show disks** コマンドを使用します。

```
show disks [] []
```

## 構文の説明

出力修飾子変数：

- *begin* : 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。
- *count* : 出力の行数をカウントします。単語 *count* の後に数字を追加します。  
| : 出力修飾子変数 (表 A-10 を参照)。
- *end* : 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。
- *exclude* : 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。
- *include* : 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。
- *last* : 出力の最後の数行を表示します。単語 *last* の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。  
| : 出力修飾子変数 (表 A-10 を参照)。

表 A-10 Count または Last の出力修飾子変数

	<p>出力修飾子変数：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>begin</i>：一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>count</i>：出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。  ：出力修飾子変数。</li> <li>• <i>end</i>：一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>exclude</i>：一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>include</i>：一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>last</i>：出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。  ：出力修飾子変数。</li> </ul>
--	---

**デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

**コマンドモード**

EXEC

**使用上のガイドライン**

**show disks** コマンドは、ディスク ファイル システムを備えたプラットフォームだけでサポートされません。

**例**

```
ncs/admin# show disks

temp. space 2% used (17828 of 988116)
disk: 3% used (143280 of 5944440)

Internal filesystems:
  all internal filesystems have sufficient free space

ncs/admin#
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<a href="#">show cpu</a>	CPU 情報を表示します。
<a href="#">show memory</a>	使用されているシステム メモリの量をシステム プロセス別に表示します。

## show icmp-status

インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) エコー応答のコンフィギュレーション情報を表示するには、EXEC モードで **show icmp\_status** コマンドを使用します。

```
show icmp_status {> file ||}
```

### 構文の説明

>	出力の方向。
file	標準出力 (stdout) をリダイレクトするファイルの名前。
	出力修飾子コマンド : <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>begin</i> : 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>–   : 出力修飾子コマンド (表 A-11 を参照)。</li> </ul> </li> <li>• <i>end</i> : 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>include</i> : 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>–   : 出力修飾子コマンド (表 A-11 を参照)。</li> </ul> </li> </ul>

表 A-11 Count または Last の出力修飾子変数

	出力修飾子変数 : <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>begin</i> : 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>count</i> : 出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>  : 出力修飾子変数。</li> </ul> </li> <li>• <i>end</i> : 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>include</i> : 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>  : 出力修飾子変数。</li> </ul> </li> </ul>
--	---

### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

EXEC

## 例

## 例 1

```
ncs/admin# show icmp_status
icmp echo response is turned on
ncs/admin#
```

## 例 2

```
ncs/admin# show icmp_status
icmp echo response is turned off
ncs/admin#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">icmp echo</a>	インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) のエコー要求を設定します。

## show interface

IP に設定されているインターフェイスのユーザビリティ ステータスを表示するには、EXEC モードで **show interface** コマンドを使用します。

**show interface** [*GigabitEthernet*] |

## 構文の説明

<i>GigabitEthernet</i>	ギガビットイーサネット インターフェイスを示します。0 または 1 のいずれかです。
	出力修飾子変数： <ul style="list-style-type: none"> <li><i>begin</i>：一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li><i>count</i>：インターフェイスの行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。</li> <li><i>end</i>：一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li><i>exclude</i>：一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li><i>include</i>：一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li><i>last</i>：出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。</li> </ul>

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

EXEC

## 使用上のガイドライン

なし。

**show interface GigabitEthernet 0** 出力では、3 つの IPv6 アドレスを持つインターフェイスを検索できます。最初のインターネット アドレス (3ffe 以降) は、ステートレス自動設定を使用した結果です。有効にするには、そのサブネットで IPv6 ルート アドバタイズメントがイネーブルになっている必要があります。次のアドレス (fe80 以降) は、ホストの外部にスコープが存在しないリンクローカルアドレスです。IPv6 自動設定または DHCPv6 設定に関係なくリンクローカルアドレスが常に表示されません。最後のアドレス (2001 以降) は、IPv6 DHCP サーバから取得した結果です。

**例****例 1**

```
ncs/admin# show interface
eth0      Link encap:Ethernet HWaddr 00:0C:29:6A:88:C4
          inet addr:172.23.90.113 Bcast:172.23.90.255 Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: fe80::20c:29ff:fe6a:88c4/64 Scope:Link
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST MTU:1500 Metric:1
          RX packets:48536 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:14152 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:6507290 (6.2 MiB) TX bytes:12443568 (11.8 MiB)
          Interrupt:59 Base address:0x2000

lo        Link encap:Local Loopback
          inet addr:127.0.0.1 Mask:255.0.0.0
          inet6 addr: ::1/128 Scope:Host
          UP LOOPBACK RUNNING MTU:16436 Metric:1
          RX packets:1195025 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:1195025 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:0
          RX bytes:649425800 (619.3 MiB) TX bytes:649425800 (619.3 MiB)

sit0      Link encap:IPv6-in-IPv4
          NOARP MTU:1480 Metric:1
          RX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:0
          RX bytes:0 (0.0 b) TX bytes:0 (0.0 b)

ncs/admin#
```

**例 2**

```
ncs/admin# show interface GigabitEthernet 0
eth0      Link encap:Ethernet HWaddr 00:0C:29:AF:DA:05
          inet addr:172.23.90.116 Bcast:172.23.90.255 Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Global
          inet6 addr: fe80::20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Link
          inet6 addr: 2001:558:ff10:870:8000:29ff:fe36:200/64 Scope:Global
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST MTU:1500 Metric:1
          RX packets:77848 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:23131 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:10699801 (10.2 MiB) TX bytes:3448374 (3.2 MiB)
          Interrupt:59 Base address:0x2000
```



## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">interface</a>	インターフェイス タイプを設定して、インターフェイス コンフィギュレーション サブモードに入ります。
<a href="#">ipv6 address autoconfig</a>	インターフェイスで IPv6 ステータス自動設定をイネーブルにします。
<a href="#">ipv6 address dhcp</a>	インターフェイスで IPv6 アドレス DHCP をイネーブルにします。

## show inventory

Cisco NCS アプライアンス モデルやシリアル番号など、ハードウェア インベントリに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show inventory** コマンドを使用します。

```
show inventory |
```

## 構文の説明

	<p>出力修飾子変数：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>begin</i> : 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>count</i> : インターフェイスの行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。</li> <li>• <i>end</i> : 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>exclude</i> : 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>include</i> : 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>last</i> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。</li> </ul>
--	---

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

EXEC

## 例

```
ncs/admin# show inventory

NAME: "L-NCS-1.0-50 chassis", DESCR: "L-NCS-1.0-50 chassis"
PID: L-NCS-1.0-50 , VID: V01 , SN: H8JESGOFHGG
Total RAM Memory: 1035164 kB
CPU Core Count: 1
CPU 0: Model Info: Intel(R) Xeon(R) CPU                E5320   @ 1.86GHz
Hard Disk Count(*): 1
Disk 0: Device Name: /dev/sda
Disk 0: Capacity: 64.40 GB
Disk 0: Geometry: 255 heads 63 sectors/track 7832 cylinders
NIC Count: 1
NIC 0: Device Name: eth0
NIC 0: HW Address: 00:0C:29:6A:88:C4
NIC 0: Driver Descr: eth0: registered as PCnet/PCI II 79C970A
```

## show コマンド

(\*) Hard Disk Count may be Logical.

ncs/admin#

## show logging

システム ロギング (syslog) の状態および標準のシステム ロギング バッファの内容を表示するには、EXEC モードで **show logging** コマンドを使用します。

**show logging** {**application** [*application-name*]} {**internal**} {**system**} |

### 構文の説明

<b>application</b>	アプリケーション ログを表示します。
<i>application-name</i>	アプリケーション名。最大 255 文字の英数字で指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- <b>tail</b> : Tail システムの syslog メッセージ。</li> <li>- <b>count</b> : Tail の最終カウント メッセージ数。0 ~ 4,294,967,295 の範囲で指定します。</li> </ul>   : 出力修飾子変数 (次を参照)。
<b>internal</b>	syslog のコンフィギュレーションを表示します。
<b>system</b>	システムの syslog を表示します。
	出力修飾子変数 : <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>begin</b> : 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <b>count</b> : インターフェイスの行数をカウントします。単語 <b>count</b> の後に数字を追加します。</li> <li>• <b>end</b> : 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <b>exclude</b> : 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <b>include</b> : 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <b>last</b> : 出力の最後の数行を表示します。単語 <b>last</b> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。</li> </ul>

### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

EXEC

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、syslog エラーおよびイベント ロギングの状態を表示します。この状態には、ホストアドレス、ロギングがイネーブルになっているロギングの宛先 (コンソール、モニタ、バッファ、またはホスト) が含まれます。

## 例

## 例 1

```
ncs/admin# show logging system
ADEOS Platform log:
-----

Aug 5 10:44:32 localhost debugd[1943]: [16618]: config:network: main.c[252] [setup]:
Setup is complete
Aug 5 10:45:02 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[242]
[setup]: Install initiated with bundle - ncs.tar.gz,
repo - SystemDefaultPkgRepos
Aug 5 10:45:02 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[256]
[setup]: Stage area - /storeddata/Installing/.1281030
302
Aug 5 10:45:02 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[260]
[setup]: Getting bundle to local machine
Aug 5 10:45:03 localhost debugd[1943]: [17291]: transfer: cars_xfer.c[58] [setup]: local
copy in of ncs.tar.gz requested
Aug 5 10:45:46 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[269]
[setup]: Got bundle at - /storeddata/Installing/.1281
030302/ncs.tar.gz
Aug 5 10:45:46 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[279]
[setup]: Unbundling package ncs.tar.gz
Aug 5 10:47:06 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[291]
[setup]: Unbundling done. Verifying input parameters.
..
Aug 5 10:47:06 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[313]
[setup]: Manifest file is at - /storeddata/Installing
/.1281030302/manifest.xml
Aug 5 10:47:07 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[323]
[setup]: Manifest file appname - ncs
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[386]
[setup]: Manifest file pkgtype - CARS
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[398]
[setup]: Verify dependency list -
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[410]
[setup]: Verify app license -
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[420]
[setup]: Verify app RPM's
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[428]
[setup]: No of RPM's - 9
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[439]
[setup]: Disk - 50
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[325]
[setup]: Disk requested = 51200 KB
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[345]
[setup]: More disk found Free = 40550400, req_disk = 51200
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[450]
[setup]: Mem requested by app - 100
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[369]
[setup]: Mem requested = 102400
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[384]
[setup]: Found MemFree = MemFree:          13028 kB
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[390]
[setup]: Found MemFree value = 13028
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[393]
[setup]: Found Inactive = Inactive:        948148 kB
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[399]
[setup]: Found Inactive MemFree value = 948148
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[409]
[setup]: Sufficient mem found
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install ci_util.c[415]
[setup]: Done checking memory...
```

```
Aug 5 10:47:09 localhost debugd[1943]: [17291]: application:install cars_install.c[461]
[setup]: Verifying RPM's...
--More--
(press Spacebar to continue)

ncs/admin#
```

**例 2**

```
ncs/admin# show logging internal

log server:          localhost
Global loglevel:    6
Status:             Enabled
ncs/admin#
```

**例 3**

```
ncs/admin# show logging internal

log server:          localhost
Global loglevel:    6
Status:             Disabled
ncs/admin#
```

## show logins

システム ログインの状態を表示するには、EXEC モードで **show logins** コマンドを使用します。

**show logins cli****構文の説明**

cli	cli ログイン履歴を一覧表示します。
-----	---------------------

**デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

**コマンドモード**

EXEC

**使用上のガイドライン**

cli キーワードを指定する必要があります。指定しない場合、エラーが発生します。

**例**

```
ncs/admin# show logins cli
admin pts/0 10.77.137.60 Fri Aug 6 09:45 still logged in
admin pts/0 10.77.137.60 Fri Aug 6 08:56 - 09:30 (00:33)
admin pts/0 10.77.137.60 Fri Aug 6 07:17 - 08:43 (01:26)
reboot system boot 2.6.18-164.el5PA Thu Aug 5 18:17 (17:49)
admin tty1 Thu Aug 5 18:15 - down (00:00)
reboot system boot 2.6.18-164.el5PA Thu Aug 5 18:09 (00:06)
setup tty1 Thu Aug 5 17:43 - 18:07 (00:24)
reboot system boot 2.6.18-164.el5PA Thu Aug 5 16:05 (02:02)

wtm begins Thu Aug 5 16:05:36 2010
```

```
ncs/admin#
```

## show memory

すべての実行プロセスのメモリ使用量を表示するには、EXEC モードで **show memory** コマンドを使用します。

### show memory

---

**構文の説明**

引数やキーワードはありません。

---

**デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

---

**コマンドモード**

EXEC

---

**例**

```
ncs/admin# show memory
total memory: 1035164 kB
free memory: 27128 kB
cached: 358888 kB
swap-cached: 142164 kB

ncs/admin#
```

## show ntp

NTP 関連付けのステータスを表示するには、EXEC モードで **show ntp** コマンドを使用します。

### show ntp

---

**構文の説明**

引数やキーワードはありません。

---

**デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

---

**コマンドモード**

EXEC

---

**例**

```
例 : 1
ncs/admin# show ntp
Primary NTP : cd-ncs-ntp.cisco.com
```

## show コマンド

```
synchronised to NTP server (10.56.60.29) at stratum 3
time correct to within 99 ms
polling server every 1024 s
```

```

remote          refid          st t when poll reach  delay  offset  jitter
=====
127.127.1.0     .LOCL.         10 1   36   64  377   0.000  0.000  0.001
*10.56.60.29    64.103.34.15  2  u   906 1024 377   270.657 3.831 14.345
```

Warning: Output results may conflict during periods of changing synchronization.  
ncs/admin#

**例 : 2**

```
ncs/admin# show ntp
% no NTP servers configured
ncs/admin#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">ntp server</a>	システムの NTP サーバを使用してソフトウェアクロックを同期化します。

## show ports

アクティブなポートを受信するすべてのプロセスに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show ports** コマンドを使用します。

```
show ports [] []
```

## 構文の説明

	<p>出力修飾子変数：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><i>begin</i>：一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li><i>count</i>：インターフェイスの行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。  ：出力修飾子変数（表 A-12 を参照）。</li> <li><i>end</i>：一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li><i>exclude</i>：一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li><i>include</i>：一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li><i>last</i>：出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。  ：出力修飾子変数（表 A-12 を参照）。</li> </ul>
--	---

表 A-12 Count または Last の出力修飾子変数

	<p>出力修飾子変数：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>begin</i>：一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>count</i>：出力の行数をカウントします。単語 <i>count</i> の後に数字を追加します。  ：出力修飾子変数。</li> <li>• <i>end</i>：一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>exclude</i>：一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>include</i>：一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。</li> <li>• <i>last</i>：出力の最後の数行を表示します。単語 <i>last</i> の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。  ：出力修飾子変数。</li> </ul>
--	---

**デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

**コマンドモード**

EXEC

**使用上のガイドライン**

**show ports** コマンドを実行する場合、ポートがアクティブなセッションに関連付けられている必要があります。

**例**

```

ncs/admin# show ports
Process : timestensubd (21372)
      tcp: 127.0.0.1:11298
Process : timestenorad (21609)
      tcp: 127.0.0.1:51715
      udp: ::1:28314, ::1:59055, ::1:45113, ::1:49082, ::1:64737, ::1:62570, ::1:19577,
      ::1:29821
Process : ttcserver (21382)
      tcp: 127.0.0.1:16612, 0.0.0.0:53385
Process : timestenrepd (21579)
      tcp: 127.0.0.1:62504, 0.0.0.0:18047
      udp: ::1:51436
Process : timestend (21365)
      tcp: 0.0.0.0:53384
Process : rpc.statd (2387)
      tcp: 0.0.0.0:873
      udp: 0.0.0.0:867, 0.0.0.0:870
Process : timestensubd (21373)
      tcp: 127.0.0.1:43407
Process : portmap (2350)
      tcp: 0.0.0.0:111
      udp: 0.0.0.0:111
Process : Decap_main (21468)
      tcp: 0.0.0.0:2000
      udp: 0.0.0.0:9993

```

```

Process : timestensubd (21369)
    tcp: 127.0.0.1:37648
Process : timestensubd (21374)
    tcp: 127.0.0.1:64211
Process : sshd (2734)
    tcp: 172.23.90.113:22
Process : java (21432)
    tcp: 127.0.0.1:8888, :::2080, :::2020, ::ffff:127.0.0.1:8005, :::8009, :::8905,
:::8010, :::2090, :::1099, :::9999, :::61616, :::8080, ::
:80, :::60628, :::8443, :::443
    udp: 0.0.0.0:1812, 0.0.0.0:1813, 0.0.0.0:1700, 0.0.0.0:10414, 0.0.0.0:3799,
0.0.0.0:1645, 0.0.0.0:1646, :::8905, :::8906
Process : monit (21531)
    tcp: 127.0.0.1:2812
Process : java (21524)
    tcp: :::62627
Process : java (21494)
    tcp: ::ffff:127.0.0.1:20515
    udp: 0.0.0.0:20514
Process : tnslnsr (21096)
    tcp: :::1521
Process : ora_d000_ncs1 (21222)
    tcp: :::26456
    udp: ::1:63198
Process : ntpd (2715)
    udp: 172.23.90.113:123, 127.0.0.1:123, 0.0.0.0:123, ::1:123, fe80::20c:29ff:fe6a:123,
:::123
Process : ora_pmon_ncs1 (21190)
    udp: ::1:51994
Process : ora_mmon_ncs1 (21218)
    udp: :::38941
Process : ora_s000_ncs1 (21224)
    udp: ::1:49864

ncs/admin#

```

## show process

アクティブなプロセスに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show process** コマンドを使用します。

**show process** |

### 構文の説明

(オプション) 出力修飾子変数:

- *begin* : 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。
- *count* : インターフェイスの行数をカウントします。単語 *count* の後に数字を追加します。
- *end* : 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。
- *exclude* : 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。
- *include* : 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。
- *last* : 出力の最後の数行を表示します。単語 *last* の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。



**デフォルト** デフォルトの動作や値はありません。

**コマンドモード** EXEC

**使用上のガイドライン** なし。

**例** process フィールドの説明については、表 A-13 を参照してください。

```

ncs/admin# show process
USER      PID      TIME TT      COMMAND
root      1 00:00:02 ?      init
root      2 00:00:00 ?      migration/0
root      3 00:00:00 ?      ksoftirqd/0
root      4 00:00:00 ?      watchdog/0
root      5 00:00:00 ?      events/0
root      6 00:00:00 ?      khelper
root      7 00:00:00 ?      kthread
root      10 00:00:01 ?      kblockd/0
root      11 00:00:00 ?      kacpid
root      170 00:00:00 ?      cqueue/0
root      173 00:00:00 ?      khubd
root      175 00:00:00 ?      kseriod
root      239 00:00:32 ?      kswapd0
root      240 00:00:00 ?      aio/0
root      458 00:00:00 ?      kpsmoused
root      488 00:00:00 ?      mpt_poll_0
root      489 00:00:00 ?      scsi_eh_0
root      492 00:00:00 ?      ata/0
root      493 00:00:00 ?      ata_aux
root      500 00:00:00 ?      kstriped
root      509 00:00:07 ?      kjournald
root      536 00:00:00 ?      kauditd
root      569 00:00:00 ?      udevd
root      1663 00:00:00 ?      kmpathd/0
root      1664 00:00:00 ?      kmpath_handlerd
root      1691 00:00:00 ?      kjournald
root      1693 00:00:00 ?      kjournald
root      1695 00:00:00 ?      kjournald
root      1697 00:00:00 ?      kjournald
root      2284 00:00:00 ?      auditd
root      2286 00:00:00 ?      audispd

```

## show コマンド

```

root      2318 00:00:10 ?      debugd
rpc       2350 00:00:00 ?      portmap
root      2381 00:00:00 ?      rpciod/0
--More--
ncs/admin#

```

表 A-13 Show Process のフィールドの説明

フィールド	説明
USER	ログインしたユーザ。
PID	プロセス ID。
TIME	コマンドが最後に使用された時刻。
TT	プロセスを制御する端末。
COMMAND	使用されたプロセスまたはコマンドのタイプ。

## show repository

リポジトリのファイルの内容を表示するには、EXEC モードで **show repository** コマンドを使用します。

**show repository repository-name**

### 構文の説明

<i>repository-name</i>	内容を表示するリポジトリの名前。30 文字までの英数字で指定します。
------------------------	------------------------------------

### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

EXEC

### 例

```

ncs/admin# show repository myrepository
back1.tar.gpg
back2.tar.gpg
ncs/admin#

```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">backup</a>	バックアップ (Cisco NCS と Cisco ADE OS) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
<a href="#">restore</a>	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
<a href="#">repository</a>	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。
<a href="#">show backup history</a>	システムのバックアップ履歴を表示します。

## show restore

復元履歴を表示するには、EXEC モードで **show restore** コマンドを使用します。

**show restore {history}**

### 構文の説明

history	復元履歴を表示します。
---------	-------------

### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

EXEC

### 例

#### 例 1

```
ncs/admin# show restore history
```

```
ncs/admin#
```

#### 例 2

```
ncs/admin# show restore history
```

```
restore history is empty
```

```
ncs/admin#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">backup</a>	バックアップ (Cisco NCS と Cisco ADE OS) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
<a href="#">restore</a>	特定のリポジトリについて、ファイル内容のバックアップを復元します。
<a href="#">repository</a>	バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入ります。
<a href="#">show backup history</a>	システムのバックアップ履歴を表示します。

## show running-config

現在の実行コンフィギュレーションファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示するには、EXEC モードで **show running-configuration** コマンドを使用します。

**show running-config**

### 構文の説明

引数やキーワードはありません。

**デフォルト**

**show running-configuration** コマンドは、すべてのコンフィギュレーション情報を表示します。

**コマンドモード**

EXEC

**例**

```
ncs/admin# show running-config
Generating configuration...
!
hostname ncs
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
  ip address 172.23.90.113 255.255.255.0
  ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 171.70.168.183
!
ip default-gateway 172.23.90.1
!
clock timezone UTC
!
ntp server time.nist.gov
!
username admin password hash $1$JbbHvKVG$xMZ/XL4tH15Knf.FfcZZr. role admin
!
service sshd
!
password-policy
  lower-case-required
  upper-case-required
  digit-required
  no-username
  disable-cisco-passwords
  min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
cdp timer 60
cdp holdtime 180
cdp run GigabitEthernet 0
!
icmp echo on
!

ncs/admin#
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<a href="#">configure</a>	コンフィギュレーション モードを開始します。
<a href="#">show startup-config</a>	スタートアップ コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

## show startup-config

スタートアップ コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示するには、EXEC モードで **show startup-config** コマンドを使用します。

### show startup-config

---

#### 構文の説明

引数やキーワードはありません。

---

#### デフォルト

**show startup-config** コマンドは、すべてのスタートアップ コンフィギュレーション情報を表示します。

---

#### コマンド モード

EXEC

---

#### 例

```
ncs/admin# show startup-config
!
hostname ncs
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
  ip address 172.23.90.113 255.255.255.0
  ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 171.70.168.183
!
ip default-gateway 172.23.90.1
!
clock timezone UTC
!
ntp server time.nist.gov
!
username admin password hash $1$JbbHvKVG$xMZ/XL4tH15Knf.FfcZZr. role admin
!
service sshd
!
password-policy
  lower-case-required
  upper-case-required
  digit-required
  no-username
  disable-cisco-passwords
  min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
cdp timer 60
cdp holdtime 180
cdp run GigabitEthernet 0
!
icmp echo on
!
```

## show コマンド

```
ncs/admin#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">configure</a>	コンフィギュレーション モードを開始します。
<a href="#">show running-config</a>	現在の実行コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

## show tech-support

電子メールなどのテクニカル サポート情報を表示するには、EXEC モードで **show tech-support** コマンドを使用します。

**show tech-support file** [*word*]

## 構文の説明

<b>file</b>	テクニカル サポート データをファイルとしてローカル ディスクに保存します。
<i>word</i>	保存するファイル名。80 文字までの英数字で指定します。

## デフォルト

パスワードやその他のセキュリティ情報は、出力には表示されません。

## コマンドモード

EXEC

## 使用上のガイドライン

**show tech-support** コマンドは、トラブルシューティングの目的で、Cisco NCS サーバに関する大量の情報を収集するのに役立ちます。問題を報告するときに、テクニカル サポートの担当者へ出力を提供します。

## 例

```
ncs/admin# show tech-support
#####
Application Deployment Engine(ADE) - 2.0.0.568
Technical Support Debug Info follows...
#####

*****
Checking dmidecode Serial Number(s)
*****
None
VMware-56 4d 14 cb 54 3d 44 5d-49 ee c4 ad a5 6a 88 c4

*****
Displaying System Uptime...
*****
12:54:34 up 18:37, 1 user, load average: 0.14, 0.13, 0.12

*****
```

```

Display Memory Usage (KB)
*****
                total      used      free      shared      buffers      cached
Mem:           1035164    1006180    28984         0         10784        345464
-/+ buffers/cache:    649932    385232
Swap:          2040244     572700    1467544
*****
Displaying Processes (ax --forest) ...
*****
  PID  TTY      STAT   TIME  COMMAND
   1  ?        Ss      0:02  init [3]
   2  ?        S<      0:00  [migration/0]
   3  ?        SN      0:00  [ksoftirqd/0]
   4  ?        S<      0:00  [watchdog/0]
   5  ?        S<      0:00  [events/0]
--More--
(prompt Spacebar to continue)

ncs/admin#

```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">show interface</a>	インターフェイスのユーザビリティステータスを表示します。
<a href="#">show process</a>	アクティブなプロセスに関する情報を表示します。
<a href="#">show running-config</a>	現在の実行コンフィギュレーションの内容を表示します。

## show terminal

端末コンフィギュレーションパラメータの設定に関する情報を取得するには、EXEC モードで **show terminal** コマンドを使用します。

### show terminal

### 構文の説明

引数やキーワードはありません。

### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

EXEC

### 例

```

ncs/admin# show terminal
TTY: /dev/pts/0 Type: "vt100"
Length: 27 lines, Width: 80 columns
Session Timeout: 30 minutes
ncs/admin#

```

表 A-14 では、**show terminal** の出力のフィールドについて説明します。

表 A-14 Show Terminal のフィールドの説明

フィールド	説明
TTY: /dev/pts/0	端末のタイプに対する標準の出力を表示します。
Type: "vt100"	現在使用されている端末のタイプ。
Length: 24 lines	端末ディスプレイの長さ。
Width: 80 columns	端末ディスプレイの文字カラムの幅。
Session Timeout: 30 minutes	セッションで、接続を終了するまでの時間（単位：分）。

## show timezone

システムに設定されている時間帯を表示するには、EXEC モードで **show timezone** コマンドを使用します。

### show timezone

#### 構文の説明

引数やキーワードはありません。

#### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンドモード

EXEC

#### 例

```
ncs/admin# show timezone
UTC
ncs/admin#
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">clock timezone</a>	システムの時間帯を設定します。
<a href="#">show timezones</a>	システムで使用可能な時間帯を表示します。

## show timezones

選択可能な時間帯のリストを取得するには、EXEC モードで **show timezones** コマンドを使用します。

### show timezones

#### 構文の説明

引数やキーワードはありません。



**デフォルト** デフォルトの動作や値はありません。

**コマンドモード** EXEC

**使用上のガイドライン** NCS サーバで使用可能な時間帯の例については、「[clock timezone](#)」(P.A-96) を参照してください。

**例**

```

ncs/admin# show timezones
Africa/Blantyre
Africa/Dar_es_Salaam
Africa/Dakar
Africa/Asmara
Africa/Timbuktu
Africa/Maputo
Africa/Accra
Africa/Kigali
Africa/Tunis
Africa/Nouakchott
Africa/Ouagadougou
Africa/Windhoek
Africa/Douala
Africa/Johannesburg
Africa/Luanda
Africa/Lagos
Africa/Djibouti
Africa/Khartoum
Africa/Monrovia
Africa/Bujumbura
Africa/Porto-Novo
Africa/Malabo
Africa/Ceuta
Africa/Banjul
Africa/Cairo
Africa/Mogadishu
Africa/Brazzaville
Africa/Kampala
Africa/Sao_Tome
Africa/Algiers
Africa/Addis_Ababa
Africa/Ndjamena
Africa/Gaborone
Africa/Bamako
Africa/Freetown
--More--
(press Spacebar to continue)

ncs/admin#

```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">show timezone</a>	システムに設定されている時間帯を表示します。
<a href="#">clock timezone</a>	システムの時間帯を設定します。

## show udi

Cisco ISE 3315 アプライアンスの UDI に関する情報を表示するには、EXEC モードで **show udi** コマンドを使用します。

### show udi

#### 構文の説明

引数やキーワードはありません。

#### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンドモード

EXEC

#### 例

##### 例 1

```
ncs/admin# show udi
SPID: L-NCS-1.0-50
VPID: V01
Serial: LAB12345678
```

```
ncs/admin#
```

次の出力は、VMware サーバで **show udi** コマンドを実行したときに表示されます。

##### 例 2

```
ncs/admin# show udi
SPID: L-NCS-1.0-50
VPID: V01
Serial: 5C79C84ML9H
```

```
ncs/admin#
```

## show uptime

Cisco NCS サーバにログインしてから経過した時間を表示するには、EXEC モードで **show uptime** コマンドを使用します。

### show uptime |

## 構文の説明

(オプション) 出力修飾子変数:

- *begin*: 一致するパターン。80 文字までの英数字で指定します。
- *count*: 出力の行数をカウントします。単語 *count* の後に数字を追加します。
- *end*: 一致する行で終了します。80 文字までの英数字で指定します。
- *exclude*: 一致する行を除外します。80 文字までの英数字で指定します。
- *include*: 一致する行を含めます。80 文字までの英数字で指定します。
- *last*: 出力の最後の数行を表示します。単語 *last* の後に数字を追加します。80 行まで表示できます。デフォルトは 10 です。

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

EXEC

## 例

```
ncs/admin# show uptime
3 day(s), 18:55:02
ncs/admin#
```

## show users

Cisco NCS サーバにログインしているユーザの一覧を表示するには、EXEC モードで **show users** コマンドを使用します。

## show users

## 構文の説明

引数やキーワードはありません。

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

EXEC

## 例

```
ncs/admin# show users
USERNAME          ROLE   HOST                TTY      LOGIN DATETIME
-----
admin             Admin  10.77.137.60       pts/0    Fri Aug  6 09:45:47 2010
ncs/admin#
```

## show version

システムのソフトウェア バージョンに関する情報を表示するには、EXEC モードで **show version** コマンドを使用します。

### show version

#### 構文の説明

引数やキーワードはありません。

#### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンドモード

EXEC

#### 使用上のガイドライン

このコマンドは、Cisco NCS サーバで動作している Cisco ADE-OS ソフトウェアに関するバージョン情報を表示し、Cisco NCS のバージョンを表示します。

#### 例

```
ncs/admin# show version
Cisco Application Deployment Engine OS Release: 2.0
ADE-OS Build Version: 2.0.0.568
ADE-OS System Architecture: i386
```

```
Copyright (c) 2005-2010 by Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.
Hostname: pmbudev-vm3
```

```
Version information of installed applications
-----
```

```
Cisco Prime Network Control System
-----
Version      : 1.0.2.051
Vendor       : Wireless Networking Business Unit
ncs/admin#
```

## コンフィギュレーション コマンド

ここでは、各コンフィギュレーション コマンドをリストします。各コマンドには、その使用方法の簡単な説明、コマンド構文、コマンドのデフォルトとモード、使用上のガイドライン、およびコマンドと関連するコマンドの例があります。

コンフィギュレーション コマンドには、**interface** や **repository** などのコマンドがあります。



#### (注)

一部のコンフィギュレーション コマンドでは、コマンド コンフィギュレーションを完了するために、コンフィギュレーション サブモードを開始する必要があります。

コンフィギュレーションモードにアクセスするには、EXECモードで **configure** コマンドを使用する必要があります。

表 A-15 に、この項で説明するコンフィギュレーションコマンドをリストします。

表 A-15 コンフィギュレーションコマンドの一覧

• <a href="#">backup-staging-url</a>	• <a href="#">ip name-server</a>
• <a href="#">cdp holdtime</a>	• <a href="#">ip route</a>
• <a href="#">cdp run</a>	• <a href="#">kron occurrence</a>
• <a href="#">cdp timer</a>	• <a href="#">kron policy-list</a>
• <a href="#">clock timezone</a>	• <a href="#">logging</a>
• <a href="#">do</a>	• <a href="#">ntp server</a>
• <a href="#">end</a>	• <a href="#">password-policy</a>
• <a href="#">exit</a>	• <a href="#">repository</a>
• <a href="#">hostname</a>	• <a href="#">service</a>
• <a href="#">icmp echo</a>	• <a href="#">shutdown</a>
• <a href="#">interface</a>	• <a href="#">snmp-server community</a>
• <a href="#">ipv6 address autoconfig</a>	• <a href="#">snmp-server contact</a>
• <a href="#">ipv6 address dhcp</a>	• <a href="#">snmp-server host</a>
• <a href="#">ip address</a>	• <a href="#">snmp-server location</a>
• <a href="#">ip default-gateway</a>	• <a href="#">username</a>
• <a href="#">ip domain-name</a>	

## backup-staging-url

バックアップ操作および復元操作が、バックアップ ファイルをパッケージ化およびアンパッケージ化するためのステージング領域として使用するネットワーク ファイル システム (NFS) の場所を設定するには、コンフィギュレーションモードで **backup-staging-url** コマンドを使用します。

### backup-staging-url *word*

#### 構文の説明

<i>word</i>	ステージング領域の NFS URL。2048 文字までの英数字で指定します。 <b>nfs://server:path</b> <sup>1</sup> という形式を使用します。
-------------	--

1. *server* はサーバ名です。*path* は /subdir/subsubdir を指します。*server* の後にコロン (:) が必要であることを覚えておいてください。

#### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンドモード

コンフィギュレーション

**使用上のガイドライン** URL は NFS のみです。コマンドの形式は、**backup-staging-url nfs://server:path** です。



**警告**

使用している NFS サーバのセキュリティを設定して、Cisco NCS サーバの IP アドレスからのみディレクトリにアクセスできるようにしてください。

**例**

```
ncs/admin(config)# backup-staging-url nfs://loc-filer02a:/vol/local1/private1/jdoe
ncs/admin(config)#
```

## cdp holdtime

受信デバイスが Cisco NCS サーバからの Cisco Discovery Protocol パケットを廃棄するまでにそれを保持する時間を指定するには、コンフィギュレーションモードで **cdp holdtime** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**cdp holdtime seconds**

構文の説明	<i>seconds</i>	保持時間を秒数で指定します。値は 10 ~ 255 秒です。
-------	----------------	--------------------------------

デフォルト	180 秒
-------	-------

コマンドモード	コンフィギュレーション
---------	-------------

**使用上のガイドライン** Cisco Discovery Protocol パケットを存続可能時間、つまり保持時間の値とともに送信します。受信デバイスは、保持時間の経過後に、Cisco Discovery Protocol パケットの Cisco Discovery Protocol 情報を廃棄します。

**cdp holdtime** コマンドに指定できる引数は 1 つだけです。複数指定した場合は、エラーが発生します。

**例**

```
ncs/admin(config)# cdp holdtime 60
ncs/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<a href="#">cdp timer</a>	Cisco NCS サーバが Cisco Discovery Protocol (CDP) の更新を送信する頻度を指定します。
	<a href="#">cdp run</a>	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。

## cdp run

Cisco Discovery Protocol をイネーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **cdp run** コマンドを使用します。Cisco Discovery Protocol をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**cdp run** [*GigabitEthernet*]

### 構文の説明

<i>GigabitEthernet</i>	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにする GigabitEthernet インターフェイスを指定します。
------------------------	--

### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

コンフィギュレーション

### 使用上のガイドライン

このコマンドでは、1つのオプションの引数（インターフェイス名）を指定します。オプションのインターフェイス名を指定しない場合、このコマンドは、すべてのインターフェイス上で Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。



(注) デフォルトでは、このコマンドは、すでに実行されているインターフェイスで動作します。インターフェイスの起動時に、最初に Cisco Discovery Protocol を停止します。次に、Cisco Discovery Protocol を起動します。

### 例

```
ncs/admin(config)# cdp run GigabitEthernet 0
ncs/admin(config)#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">cdp holdtime</a>	受信デバイスがパケットを廃棄する前に Cisco NCS サーバから Cisco Discovery Protocol パケットを保持する時間を指定します。
<a href="#">cdp timer</a>	Cisco NCS サーバが Cisco Discovery Protocol (CDP) の更新を送信する頻度を指定します。

## cdp timer

Cisco NCS サーバが Cisco Discovery Protocol 更新を送信する頻度を指定するには、コンフィギュレーション モードで **cdp timer** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**cdp timer** *seconds*

## ■ コンフィギュレーションコマンド

構文の説明	<i>seconds</i>	Cisco NCS サーバが Cisco Discovery Protocol 更新を送信する頻度を秒単位で指定します。値は 5 ~ 254 秒です。
-------	----------------	---

デフォルト 60 秒

コマンドモード コンフィギュレーション

**使用上のガイドライン** Cisco Discovery Protocol パケットを存続可能時間、つまり保持時間の値とともに送信します。受信デバイスは、保持時間の経過後に、Cisco Discovery Protocol パケットの Cisco Discovery Protocol 情報を廃棄します。

**cdp timer** コマンドに指定できる引数は 1 つだけです。複数指定した場合は、エラーが発生します。

**例**

```
ncs/admin(config)# cdp timer 60
ncs/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<a href="#">cdp holdtime</a>	受信デバイスがパケットを廃棄する前に Cisco NCS サーバから Cisco Discovery Protocol パケットを保持する時間を指定します。
	<a href="#">cdp run</a>	Cisco Discovery Protocol をイネーブルにします。

## clock timezone

時間帯を設定するには、コンフィギュレーションモードで **clock timezone** コマンドを実行します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**clock timezone *timezone***

構文の説明	<i>timezone</i>	標準時に表示する時間帯の名前。64 文字までの英数字で指定します。
-------	-----------------	-----------------------------------

デフォルト UTC

コマンドモード コンフィギュレーション

**使用上のガイドライン** システムの内部的には、UTC での時刻が保持されます。具体的な時間帯がわからない場合、地域、国、および都市を入力できます（システムに入力するサンプルの時間帯については、[A-16](#)、[A-17](#)、[A-18](#) の各表を参照してください）。



表 A-16 共通の時間帯

略語または名前	時間帯名
<b>欧州</b>	
GMT、GMT0、GMT-0、GMT+0、UTC、Greenwich、Universal、Zulu	グリニッジ標準時 (UTC)
GB	英国
GB-Eire、Eire	アイルランド
WET	西ヨーロッパ時間 (UTC)
CET	中央ヨーロッパ標準時 (UTC + 1 時間)
EET	東ヨーロッパ時間 (UTC + 2 時間)
<b>米国およびカナダ</b>	
EST、EST5EDT	東部標準時、UTC - 5 時間
CST、CST6CDT	中央標準時、UTC - 6 時間
MST、MST7MDT	山岳部標準時、UTC - 7 時間
PST、PST8PDT	太平洋標準時、UTC - 8 時間
HST	ハワイ標準時、UTC - 10 時間

表 A-17 オーストラリアの時間帯

<b>オーストラリア<sup>1</sup></b>			
ACT <sup>2</sup>	Adelaide	Brisbane	Broken_Hill
Canberra	Currie	Darwin	Hobart
Lord_Howe	Lindeman	LHI <sup>3</sup>	Melbourne
North	NSW <sup>4</sup>	Perth	Queensland
South	Sydney	Tasmania	Victoria
West	Yancowinna		

1. 国と都市をスラッシュ (/) で区切って入力します (例: Australia/Currie)。
2. ACT = Australian Capital Territory (オーストラリア首都特別地域)
3. LHI = Lord Howe Island (ロードハウ諸島)
4. NSW = New South Wales (ニューサウスウェールズ)

表 A-18 アジアの時間帯

<b>アジア<sup>1</sup></b>			
Aden <sup>2</sup>	Almaty	Amman	Anadyr
Aqtau	Aqtobe	Ashgabat	Ashkhabad
Baghdad	Bahrain	Baku	Bangkok
Beirut	Bishkek	Brunei	Calcutta
Choibalsan	Chongqing	Columbo	Damascus
Dhakar	Dili	Dubai	Dushanbe

表 A-18 アジアの時間帯 (続き)

アジア <sup>1</sup>			
Gaza	Harbin	Hong_Kong	Hovd
Irkutsk	Istanbul	Jakarta	Jayapura
Jerusalem	Kabul	Kamchatka	Karachi
Kashgar	Katmandu	Kuala_Lumpur	Kuching
Kuwait	Krasnoyarsk		

1. アジアの時間帯には、東アジア、南アジア、東南アジア、西アジア、および中央アジアがあります。
2. 地域と都市または国をスラッシュ (/) で区切って入力します (例: Asia/Aden)。



(注)

これ以外にも使用可能な時間帯がいくつかあります。Cisco NCS サーバで **show timezones** コマンドを入力します。Cisco NCS サーバで使用可能なすべての時間帯のリストが表示されます。該当地域の時間帯に最も適した時間帯を選択します。

## 例

```
ncs/admin(config)# clock timezone EST
ncs/admin(config)# exit
ncs/admin# show timezone
EST
ncs/admin#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">show timezones</a>	システムで使用可能な時間帯を一覧表示します。
<a href="#">show timezone</a>	システムに現在設定されている時間帯を表示します。

## do

コンフィギュレーション モードまたは任意のコンフィギュレーション サブモードから EXEC レベルのコマンドを実行するには、コンフィギュレーション モードで **do** コマンドを使用します。

**do arguments**

## 構文の説明

<i>arguments</i>	実行する EXEC コマンド (表 A-19 を参照)。
------------------	------------------------------

表 A-19 Do コマンドのコマンド オプション

コマンド	説明
<b>application install</b>	特定のアプリケーションをインストールします。
<b>application remove</b>	特定のアプリケーションを削除します。
<b>application start</b>	特定のアプリケーションを起動またはイネーブルにします。
<b>application stop</b>	特定のアプリケーションを停止またはディセーブルにします。

表 A-19 Do コマンドのコマンド オプション (続き)

コマンド	説明
<b>application upgrade</b>	特定のアプリケーションをアップグレードします。
<b>backup</b>	バックアップ (Cisco NCS と Cisco ADE OS) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
<b>backup-logs</b>	Cisco NCS サーバに記録されているすべてのログをリモートの場所にバックアップします。
<b>clock</b>	Cisco NCS サーバのシステム クロックを設定します。
<b>configure</b>	コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>copy</b>	コピー元からコピー先に任意のファイルをコピーします。
<b>debug</b>	さまざまなコマンド状況 (たとえば、バックアップと復元、コンフィギュレーション、コピー、リソースのロック、ファイル転送、ユーザ管理など) で、エラーまたはイベントを表示します。
<b>delete</b>	Cisco NCS サーバ上のファイルを削除します。
<b>dir</b>	Cisco NCS サーバ上のファイルを一覧表示します。
<b>forceout</b>	特定の Cisco NCS ノード ユーザのすべてのセッションを強制的にログアウトします。
<b>halt</b>	Cisco NCS サーバをディセーブルにするか、シャットダウンします。
<b>help</b>	ヘルプユーティリティと Cisco NCS サーバでのその使用方法を表示します。
<b>mkdir</b>	新しいディレクトリを作成します。
<b>nslookup</b>	リモート システムの IPv4 アドレスまたはホスト名を照会します。
<b>patch</b>	システムまたはパッチ アプリケーションをインストールします。
<b>pep</b>	インライン PEP ノードを設定します。
<b>ping</b>	リモート システムの IPv4 ネットワーク アクティビティを判断します。
<b>ping6</b>	IPv6 リモート システムの IPv6 ネットワーク アクティビティを判断します。
<b>reload</b>	Cisco NCS サーバを再起動します。
<b>restore</b>	復元を実行して、リポジトリからバックアップを取得します。
<b>rmdir</b>	既存のディレクトリを削除します。
<b>show</b>	Cisco NCS サーバに関する情報を提供します。
<b>ssh</b>	リモート システムとの暗号化されたセッションを開始します。
<b>tech</b>	Technical Assistance Center (TAC) コマンドを提供します。
<b>telnet</b>	リモート システムへの Telnet 接続を確立します。
<b>terminal length</b>	端末回線のパラメータを設定します。
<b>terminal session-timeout</b>	すべてのターミナルセッションに対して、非アクティブ タイムアウトを設定します。
<b>terminal session-welcome</b>	すべてのターミナルセッションで表示されるウェルカム メッセージをシステムに設定します。
<b>terminal terminal-type</b>	現在のセッションの現在の回線に接続されている端末のタイプを指定します。
<b>traceroute</b>	リモート IP アドレスのルートをトレースします。

表 A-19 Do コマンドのコマンド オプション (続き)

コマンド	説明
<b>undebug</b>	さまざまなコマンド状況 (たとえば、バックアップと復元、コンフィギュレーション、コピー、リソースのロック、ファイル転送、ユーザ管理など) で、 <b>debug</b> コマンドの出力 (エラーまたはイベントの表示) をディセーブルにします。
<b>write</b>	強制的にセットアップユーティリティを実行してネットワーク コンフィギュレーションをプロンプトするスタートアップ コンフィギュレーションを消去し、実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーし、コンソールに実行コンフィギュレーションを表示します。

**コマンド デフォルト** デフォルトの動作や値はありません。

**コマンド モード** コンフィギュレーション モードまたはコンフィギュレーション サブモード

**使用上のガイドライン** このコマンドは、サーバの設定中に、EXEC コマンド (**show**、**clear**、**debug** などの各コマンド) を実行する場合に使用します。EXEC コマンドの実行後、システムは使用していたコンフィギュレーション モードに戻ります。

**例**

```

ncs/admin(config)# do show run
Generating configuration...
!
hostname ncs
!
ip domain-name cisco.com
!
interface GigabitEthernet 0
  ip address 172.23.90.113 255.255.255.0
  ipv6 address autoconfig
!
ip name-server 171.70.168.183
!
ip default-gateway 172.23.90.1
!
clock timezone EST
!
ntp server time.nist.gov
!
username admin password hash $1$JbbHvKVG$xmZ/XL4tH15Knf.FfcZzr. role admin
!
service sshd
!
backup-staging-url nfs://loc-filer02a:/vol/local1/private1/jdoe
!
password-policy
  lower-case-required
  upper-case-required
  digit-required
  no-username

```

```

disable-cisco-passwords
min-password-length 6
!
logging localhost
logging loglevel 6
!
--More--

ncs/admin(config)#

```

## end

現在のコンフィギュレーションセッションを終了して、EXEC モードに戻るには、コンフィギュレーションモードで **end** コマンドを使用します。

**end**

### 構文の説明

引数やキーワードはありません。

### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

コンフィギュレーション

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、現在のコンフィギュレーションモードやサブモードにかかわらず、EXEC モードに移行します。

このコマンドは、システム設定を終了し、EXEC モードに戻って、検証手順を実行する場合に使用します。

### 例

```

ncs/admin(config)# end
ncs/admin#

```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">exit</a>	コンフィギュレーションモードを終了します。
<a href="#">exit</a> (EXEC)	Cisco NCS サーバからログアウトすることで、アクティブなターミナルセッションを閉じます。

## exit

コンフィギュレーションモードを終了して、CLI モード階層で次に高いモードに移行するには、コンフィギュレーションモードで **exit** コマンドを使用します。

**exit**

## ■ コンフィギュレーションコマンド

**構文の説明** 引数やキーワードはありません。

**デフォルト** デフォルトの動作や値はありません。

**コマンドモード** コンフィギュレーション

**使用上のガイドライン** **exit** コマンドは、Cisco NCS サーバで、現在のコマンドモードを終了して、CLI モード階層で次に高いコマンドモードに移行する場合に使用します。

たとえば、EXEC モードに戻るには、コンフィギュレーションモードで **exit** コマンドを使用します。コンフィギュレーションサブモードで **exit** コマンドを使用すると、コンフィギュレーションモードに戻ります。最上位の EXEC モードで **exit** コマンドを使用すると、EXEC モードを終了して、Cisco NCS サーバから接続解除されます (**exit** (EXEC) コマンドの説明については、「[exit](#)」(P.A-24) を参照してください)。

**例**

```
ncs/admin(config)# exit
ncs/admin#
```

コマンド	説明
<b>end</b>	コンフィギュレーションモードを終了します。
<b>exit</b> (EXEC)	Cisco NCS サーバからログアウトすることで、アクティブなターミナルセッションを閉じます。

## hostname

システムのホスト名を設定するには、コンフィギュレーションモードで **hostname** コマンドを使用します。システムからホスト名を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。これで、システムのホスト名が **localhost** にリセットされます。

**hostname word**

構文の説明	hostname	説明
	<i>word</i>	ホストの名前。2 ~ 64 文字の英数字と下線 ( _ ) で指定します。ホスト名はスペース以外の文字で始める必要があります。

**デフォルト** デフォルトの動作や値はありません。

**コマンドモード** コンフィギュレーション

**使用上のガイドライン**

シングル インスタンス タイプのコマンドである **hostname** は、システムの設定時に一度だけ実行します。ホスト名には 1 つの引数を含める必要があります。引数がない場合、エラーが発生します。

**例**

```

ncs/admin(config)# hostname ncs-1
Changing the hostname or IP may result in undesired side effects,
such as installed application(s) being restarted.
Are you sure you want to proceed? [y/n] y
Stopping NCS Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Stopping NCS Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Stopping NCS Monitoring & Troubleshooting Alert Process...
Stopping NCS Application Server...
Stopping NCS Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Stopping NCS Database processes...
Starting NCS Database processes...
Starting NCS Monitoring & Troubleshooting Session Database...
Starting NCS Application Server...
Starting NCS Monitoring & Troubleshooting Log Collector...
Starting NCS Monitoring & Troubleshooting Log Processor...
Starting NCS Monitoring & Troubleshooting Alert Process...
Note: NCS Processes are initializing. Use 'show application status ncs'
      CLI to verify all processes are in running state.

ncs-1/admin(config)#

ncs-1/admin# show application status ncs

NCS Database listener is running, PID: 11142
NCS Database is running, number of processes: 29
NCS Application Server is still initializing.
NCS M&T Session Database is running, PID: 11410
NCS M&T Log Collector is running, PID: 11532
NCS M&T Log Processor is running, PID: 11555
NCS M&T Alert Process is running, PID: 11623

ncs-1/admin#

```

**icmp echo**

インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) のエコー応答を設定するには、コンフィギュレーション モードで **icmp echo** コマンドを使用します。

**icmp echo** {*off* | *on*}

**構文の説明**

<i>off</i>	ICMP エコー応答をディセーブルにします。
<i>on</i>	ICMP エコー応答をイネーブルにします。

**デフォルト**

システムは ICMP エコー応答がオン (イネーブル) の場合と同様に動作します。

**コマンド モード**

コンフィギュレーション

## 例

```
ncs/admin(config)# icmp echo off
ncs/admin(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">show icmp-status</a>	ICMP エコー応答のコンフィギュレーション情報を表示します。

## interface

インターフェイスのタイプを設定してインターフェイス コンフィギュレーション モードに入るには、コンフィギュレーション モードで **interface** コマンドを使用します。



(注)

VMware 仮想マシンで使用可能なインターフェイスの数は、仮想マシンに追加されるネットワーク インターフェイス (NIC) の数によって異なることがあります。

**interface GigabitEthernet [0 | 1 | 2 | 3]**

## 構文の説明

<b>GigabitEthernet</b>	ギガビット イーサネット インターフェイスを設定します。
<b>0 ~ 3</b>	設定するギガビット イーサネット ポートの数。



(注)

**interface** コマンドでギガビット インターネット ポートの数を入力すると、**config-GigabitEthernet** コンフィギュレーション サブモードに入ります (この「構文の説明」を参照)。

<b>do</b>	EXEC コマンド。このモードで EXEC コマンドを実行できます ( <a href="#">「do」 (P.A-98)</a> を参照)。
<b>end</b>	<b>config-GigabitEthernet</b> サブモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
<b>exit</b>	<b>config-GigabitEthernet</b> コンフィギュレーション サブモードを終了します。
<b>ip</b>	イーサネット インターフェイスに対して、IP アドレスとネットマスクを設定します ( <a href="#">「ip address」 (P.A-108)</a> を参照)。
<b>ipv6</b>	DHCPv6 サーバから IPv6 アドレス自動設定および IPv6 アドレスを設定します ( <a href="#">「ipv6 address autoconfig」 (P.A-105)</a> および <a href="#">「ipv6 address dhcp」 (P.A-107)</a> を参照)。
<b>no</b>	このモードのコマンドを否定します。2 つのキーワードを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>ip</b> : インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。</li> <li><b>shutdown</b> : インターフェイスをシャットダウンします。</li> </ul>
<b>shutdown</b>	インターフェイスをシャットダウンします ( <a href="#">「shutdown」 (P.A-121)</a> を参照)。

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。



**コマンド モード**    コンフィギュレーション

**使用上のガイドライン**    **interface** コマンドは、さまざまな要件をサポートするサブインターフェイスを設定するために使用できます。

**例**

```
ncs/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
ncs/admin(config-GigabitEthernet)#
```

### 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">show interface</a>	システム インターフェイスに関する情報を表示します。
<a href="#">ip address</a> (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
<a href="#">shutdown</a> (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスをシャットダウンします ( <a href="#">「shutdown」 (P.A-121)</a> を参照)。

## ipv6 address autoconfig

IPv6 ステートレス自動設定をイネーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **interface GigabitEthernet 0** コマンドを使用します。このコマンドには、**no** 形式はありません。

IPv6 アドレス自動設定は、Linux ではデフォルトでイネーブルです。Cisco ADE 2.0 は、イネーブルになっている任意のインターフェイスの実行コンフィギュレーションで IPv6 アドレス自動設定を示します。

**interface GigabitEthernet 0**

### 構文の説明

interface	インターフェイスを設定するコマンド。
GigabitEthernet	ギガビット イーサネット インターフェイスを設定します。
<0 - 3>	設定するギガビット イーサネット ポートの数。

### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

**コマンド モード**    コンフィギュレーション

**使用上のガイドライン**    IPv6 ステートレス自動設定には、予測可能な IP アドレスを持つというセキュリティ面の落とし穴があります。この落とし穴は、プライベートの拡張によって解決されます。**show** コマンドを使用して、プライベート機能拡張がイネーブルになっていることを確認できます。

**例 1**

```

ncs/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ncs/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
ncs/admin(config)# (config-GigabitEthernet)# ipv6 address autoconfig
ncs/admin(config)# (config-GigabitEthernet)# end
ncs/admin#

```

IPv6 自動設定がイネーブルの場合、実行コンフィギュレーションは次のようなインターフェイス設定を表示します。

```

!
interface GigabitEthernet 0
  ip address 172.23.90.116 255.255.255.0
  ipv6 address autoconfig
!

```

インターフェイス設定を表示するには、**show interface GigabitEthernet 0** コマンドを使用できます。例 2 では、インターフェイスには 3 個の IPv6 アドレスが設定されていることがわかります。最初のアドレス (3ffe 以降) は、ステートレス自動設定を使用して取得されます。ステートレス自動設定が機能するには、そのサブネットで IPv6 ルートアドバタイズメントがイネーブルになっている必要があります。次のアドレス (fe80 以降) は、ホストの外部にスコープが存在しないリンクローカルアドレスです。IPv6 自動設定または DHCPv6 設定に関係なくリンクローカルアドレスが常に表示されます。最後のアドレス (2001 以降) は、IPv6 DHCP サーバから取得されます。

**例 2**

```

ncs/admin# show interface GigabitEthernet 0
eth0      Link encap:Ethernet HWaddr 00:0C:29:AF:DA:05
          inet addr:172.23.90.116 Bcast:172.23.90.255 Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Global
          inet6 addr: fe80::20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Link
          inet6 addr: 2001:558:ff10:870:8000:29ff:fe36:200/64 Scope:Global
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST MTU:1500 Metric:1
          RX packets:77848 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:23131 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:1000
          RX bytes:10699801 (10.2 MiB) TX bytes:3448374 (3.2 MiB)
          Interrupt:59 Base address:0x2000

ncs/admin#

```

次の RFC で、IPv6 ステートレス自動設定のプライバシー拡張が提供されます。

<http://www.ietf.org/rfc/rfc3041.txt>

プライバシーの拡張機能がイネーブルであることを確認するには、**show interface GigabitEthernet 0** コマンドを使用できます。2 つの自動設定アドレスが表示されます。1 つのアドレスはプライバシー拡張なしで、もう 1 つはプライバシー拡張ありです。

次の例 3 では MAC は 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64 で非 RFC3041 アドレスには MAC が含まれています。プライバシー拡張アドレスは 302:11:2:9d65:e608:59a9:d4b9/64 です。

出力は次のように表示されます。

**例 3**

```

ncs/admin# show interface GigabitEthernet 0
eth0      Link encap:Ethernet HWaddr 00:0C:29:AF:DA:05
          inet addr:172.23.90.116 Bcast:172.23.90.255 Mask:255.255.255.0
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:9d65:e608:59a9:d4b9/64 Scope:Global
          inet6 addr: 3ffe:302:11:2:20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Global

```

```
inet6 addr: fe80::20c:29ff:feaf:da05/64 Scope:Link
UP BROADCAST RUNNING MULTICAST MTU:1500 Metric:1
RX packets:60606 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
TX packets:2771 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
collisions:0 txqueuelen:1000
RX bytes:9430102 (8.9 MiB) TX bytes:466204 (455.2 KiB)
Interrupt:59 Base address:0x2000
```

```
ncs/admin#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>show interface</code>	システム インターフェイスに関する情報を表示します。
<code>ip address</code> (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
<code>shutdown</code> (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスをシャットダウンします (「 <code>shutdown</code> 」 (P.A-121) を参照)。
<code>ipv6 address dhcp</code>	インターフェイスで IPv6 アドレス DHCP をイネーブルにします。
<code>show running-config</code>	現在の実行コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

## ipv6 address dhcp

IPv6 アドレス DHCP をイネーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **interface GigabitEthernet 0** コマンドを使用します。このコマンドには、**no** 形式はありません。

```
interface GigabitEthernet 0
```

## 構文の説明

<code>interface</code>	インターフェイスを設定するコマンド。
<code>GigabitEthernet</code>	ギガビット イーサネット インターフェイスを設定します。
<code>0</code>	設定するギガビット イーサネット ポート番号。

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

コンフィギュレーション

## 使用上のガイドライン

なし。

## 例

```
ncs/admin# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
ncs/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
ncs/admin(config-GigabitEthernet)# ipv6 address dhcp
```

```
ncs/admin(config-GigabitEthernet)# end
ncs/admin#
```

DHCPv6 IPv6 がイネーブルの場合、実行コンフィギュレーションは次のようなインターフェイス設定を表示します。

```
!
interface GigabitEthernet 0
  ip address 172.23.90.116 255.255.255.0
  ipv6 address dhcp
!
```



(注)

IPv6 ステートレス自動設定および IPv6 アドレス DHCP は相互に排他的ではありません。同じインターフェイスに IPv6 ステートレス自動設定および IPv6 アドレス DHCP の両方を指定できます。どの IPv6 アドレスが特定のインターフェイスで使用されているかを表示するには、**show interface** を使用できます。

IPv6 ステートレス自動設定および IPv6 アドレス DHCP の両方がイネーブルの場合、実行コンフィギュレーションは次のようなインターフェイス設定を表示します。

```
!
interface GigabitEthernet 0
  ip address 172.23.90.116 255.255.255.0
  ipv6 address dhcp
!
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">show interface</a>	システム インターフェイスに関する情報を表示します。
<a href="#">ip address</a> (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
<a href="#">shutdown</a> (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	インターフェイスをシャットダウンします ( <a href="#">「shutdown」 (P.A-121)</a> を参照)。
<a href="#">ipv6 address autoconfig</a>	インターフェイスで IPv6 ステートレス自動設定をイネーブルにします。
<a href="#">show running-config</a>	現在の実行コンフィギュレーション ファイルまたはコンフィギュレーションの内容を表示します。

## ip address

イーサネット インターフェイスに対し、IP アドレスとネットマスクを設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **ip address** コマンドを使用します。IP アドレスを削除するか、IP プロセッシングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip address ip-address netmask**



(注) 複数のインターフェイスで、同じ IP アドレスを設定できます。この設定により、2 つのインターフェイス間の切り替えに必要なコンフィギュレーション手順を制限できます。

#### 構文の説明

<i>ip-address</i>	IPv4 バージョンの IP アドレス。
<i>netmask</i>	関連付けられた IP サブネットのマスク。

#### デフォルト

イネーブル

#### コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション

#### 使用上のガイドライン

正確にアドレスとネットマスクを 1 つずつ指定する必要があります。指定しない場合、エラーが発生します。

#### 例

```
ncs/admin(config)# interface GigabitEthernet 1
ncs/admin(config-GigabitEthernet)# ip address 209.165.200.227 255.255.255.224
Changing the hostname or IP may result in undesired side effects,
such as installed application(s) being restarted.
.....
To verify that NCS processes are running, use the
'show application status ncs' command.
ncs/admin(config-GigabitEthernet)#
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">shutdown</a> (インターフェイス コンフィギュレーションモード)	インターフェイスをディセーブルにします (「 <a href="#">shutdown</a> 」 (P.A-121) を参照)。
<a href="#">ip default-gateway</a>	インターフェイスのデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを設定します。
<a href="#">show interface</a>	システムの IP インターフェイスに関する情報を表示します。
<a href="#">interface</a>	インターフェイス タイプを設定してインターフェイス モードに入ります。

## ip default-gateway

IP アドレスを指定してデフォルト ゲートウェイを定義または設定するには、コンフィギュレーションモードで **ip default-gateway** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip default-gateway ip-address**

構文の説明	<code>ip-address</code>	デフォルト ゲートウェイの IP アドレス。
-------	-------------------------	------------------------

デフォルト      ディセーブル

コマンドモード      コンフィギュレーション

使用上のガイドライン      複数の引数を入力した場合、または引数を指定していない場合はエラーが発生します。

例

```
ncs/admin(config)# ip default-gateway 209.165.202.129
ncs/admin(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	<code>ip address</code> (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	イーサネット インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。

## ip domain-name

Cisco NCS サーバがホスト名を完成させるために使用するデフォルトのドメイン名を定義するには、コンフィギュレーション モードで **ip domain-name** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ip domain-name** *word*

構文の説明	<i>word</i>	ホスト名を完成させるために使用するデフォルトのドメイン名。2 ～ 64 文字の英数字で指定します。
-------	-------------	---

デフォルト      イネーブル

コマンドモード      コンフィギュレーション

使用上のガイドライン      入力した引数が多すぎるか不足している場合、エラーが発生します。

例

```
ncs/admin(config)# ip domain-name cisco.com
ncs/admin(config)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">ip name-server</a>	DNS クエリー時に使用する DNS サーバを設定します。

## ip name-server

DNS クエリー実行時に使用するドメイン ネーム サーバ (DNS) のサーバを設定するには、コンフィギュレーション モードで **ip name-server** コマンドを使用します。1 ~ 3 台の DNS サーバを設定できます。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。



(注)

このコマンドの **no** 形式を使用すると、コンフィギュレーションからすべてのネーム サーバが削除されます。このコマンドの **no** 形式と IP 名の 1 つを使用すると、その IP 名サーバだけが削除されます。

**ip name-server ip-address [ip-address\*]**

## 構文の説明

<b>ip name-server</b>	使用するネーム サーバの IP アドレスを設定するコマンド。
<b>ip-address</b>	ネーム サーバのアドレス。
<b>ip-address*</b>	(オプション) 追加のネーム サーバの IP アドレス。
	(注) ネーム サーバは、最大 3 台設定できます。

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

コンフィギュレーション

## 使用上のガイドライン

**ip name-server** コマンドを使用して追加された最初のネーム サーバは最初の位置に配置されます。システムはそのサーバを最初に使用して、IP アドレスを解決します。

ネーム サーバは、最大数 (3 台) に達するまで、一度に 1 台またはすべてをシステムに追加できます。システムにすでに 3 台のネーム サーバが設定されている場合、少なくとも 1 台を削除するまでネーム サーバを追加できません。

1 台のネーム サーバを最初の位置に配置して、サブシステムにまずそのサーバを使用させるには、このコマンドの **no** 形式を使用してすべてのネーム サーバを削除してから処理を進める必要があります。

## 例

```
ncs/admin(config)# ip name-server 209.165.201.1
```

```
To verify that NCS processes are running, use the
'show application status ncs' command.
ncs/admin(config)#
```

Cisco NCS サーバを再起動しないように選択できますが、それでも変更は有効になります。

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>ip domain-name</code>	サーバがホスト名を完成させるために使用するデフォルトのドメイン名を定義します。

## ip route

スタティック ルートを設定するには、コンフィギュレーション モードで **ip route** コマンドを使用します。スタティック ルートを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

スタティック ルートは手動で設定されます。これによって、柔軟性が低くなります（ネットワーク トポロジの変更に対応できません）が、安定性は非常に高くなります。スタティック ルートでは、維持するためにルーティングの更新を送信される必要がないため、帯域幅使用率が最適化されます。また、ルーティング ポリシーを実施することが容易になります。

**ip route** *prefix mask gateway ip-address*

**no ip route** *prefix mask*

## 構文の説明

<i>prefix</i>	宛先の IP ルート プレフィクス。
<i>mask</i>	宛先のプレフィクス マスク。
<i>ip-address</i>	ネットワークに到達するために使用可能なネクスト ホップの IP アドレス。

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

コンフィギュレーション

## 例

```
ncs/admin(config)# ip route 192.168.0.0 255.255.0.0 gateway 172.23.90.2
ncs/admin(config)#
```

## kron occurrence

1 つ以上のコマンド スケジューラ コマンドが、特定の日に、または繰り返して実行されるようにスケジューリングするには、コンフィギュレーション モードで **kron occurrence** コマンドを使用します。このスケジュールを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**kron** {**occurrence**} *occurrence-name*

## 構文の説明

<b>occurrence</b>	コマンド スケジューラ コマンドをスケジューリングします。
<i>occurrence-name</i>	オカレンスの名前。80 文字までの英数字で指定します（次の「注」と「構文の説明」を参照）。





(注) **kron occurrence** コマンドで *occurrence-name* を入力すると、**config-occurrence** コンフィギュレーションサブモードに入ります (次の「構文の説明」を参照)。

at	指定した日時にオカレンスが実行されるように指定します。使用方法 : at [hh:mm] [day-of-week   day-of-month   month day-of-month].
do	EXEC コマンド。このモードで EXEC コマンドを実行できます (「do」(P.A-98) を参照)。
end	<b>kron-occurrence</b> コンフィギュレーションサブモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
exit	<b>kron-occurrence</b> コンフィギュレーションモードを終了します。
no	このモードのコマンドを否定します。 3つのキーワードを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• at : 使用方法 : at [hh:mm] [day-of-week   day-of-month   month day-of-month].</li> <li>• policy-list : オカレンスによって実行されるポリシー リストを指定します。80文字までの英数字で指定します。</li> <li>• recurring : ポリシー リストの実行を繰り返します。</li> </ul>
policy-list	オカレンスによって実行されるコマンドスケジューラ ポリシー リストを指定します。
recurring	繰り返して実行するオカレンスを指定します。

## デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

コンフィギュレーション

## 使用上のガイドライン

同じ時間または間隔で実行する 1 つ以上のポリシー リストをスケジューリングするには、**kron occurrence** コマンドと **policy-list** コマンドを使用します。

EXEC CLI コマンドを含むコマンドスケジューラ ポリシーを作成して、指定した時刻に Cisco NCS サーバで実行されるようにスケジューリングするには、**kron policy-list** コマンドとともに **cli** コマンドを使用します。「**kron policy-list**」(P.A-114) を参照してください。



## 例

(注) **kron** コマンドを実行すると、一意の名前 (タイムスタンプの追加により) でバックアップ バンドルが作成されるため、ファイルが互いに上書きされることはありません。

### 例 1 : 週次バックアップ

```
ncs/admin(config)# kron occurrence WeeklyBackup
ncs/admin(config-Occurrence)# at 14:35 Monday
ncs/admin(config-Occurrence)# policy-list SchedBackupPolicy
ncs/admin(config-Occurrence)# recurring
ncs/admin(config-Occurrence)# exit
ncs/admin(config)#
```

**例 2 : 日次バックアップ**

```

ncs/admin(config)# kron occurrence DailyBackup
ncs/admin(config-Occurrence)# at 02:00
ncs/admin(config-Occurrence)# exit
ncs/admin(config)#

```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<a href="#">kron policy-list</a>	コマンド スケジューラ ポリシーの名前を指定します。

**kron policy-list**

コマンド スケジューラ ポリシーの名前を指定し、kron-Policy List コンフィギュレーション サブモードに入るには、コンフィギュレーション モードで **kron policy-list** コマンドを使用します。コマンド スケジューラ ポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**kron {policy-list} list-name**

**構文の説明**

<b>policy-list</b>	コマンド スケジューラ ポリシーの名前を指定します。
<i>list-name</i>	ポリシー リストの名前。80 文字までの英数字で指定します。

**(注)**

**kron policy-list** コマンドで *list-name* を入力すると、config-Policy List コンフィギュレーション サブモードに入ります (次の「構文の説明」を参照)。

<b>cli</b>	スケジューラによって実行されるコマンド。80 文字までの英数字で指定します。
<b>do</b>	EXEC コマンド。このモードで EXEC コマンドを実行できます ( <a href="#">「do」(P.A-98)</a> を参照)。
<b>end</b>	<b>config-policy list</b> コンフィギュレーション サブモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
<b>exit</b>	このサブモードを終了します。
<b>no</b>	このモードのコマンドを否定します。次の 1 つのキーワードを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>cli</b> : スケジューラによって実行されるコマンド。</li> </ul>

**デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

**コマンド モード**

コンフィギュレーション

**使用上のガイドライン**

EXEC CLI コマンドを含むコマンド スケジューラ ポリシーを作成して、指定した時刻に NCS サーバで実行されるようにスケジューリングするには、**kron policy-list** コマンドとともに **cli** コマンドを使用します。同じ時間または間隔で実行する 1 つ以上のポリシー リストをスケジューリングするには、**kron occurrence** コマンドと **policy list** コマンドを使用します。「[ip route](#)」(P.A-112) を参照してください。

**例**

```
ncs/admin(config)# kron policy-list SchedBackupMonday
ncs/admin(config-Policy List)# cli backup SchedBackupMonday repository SchedBackupRepo
ncs/admin(config-Policy List)# exit
ncs/admin(config)#
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<a href="#">ip route</a>	コマンド スケジューラ オカレンスのスケジュール パラメータを指定して、 <b>config-Occurrence</b> コンフィギュレーション モードに入ります。

**logging**

システムによるリモート システムへのログの転送や、ログ レベルの設定をイネーブルにするには、コンフィギュレーション モードで **logging** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**logging** {*ip-address* | *hostname*} {*loglevel level*}

**構文の説明**

<i>ip-address</i>	ログを転送するリモート システムの IP アドレス。32 文字までの英数字で指定します。
<i>hostname</i>	ログを転送するリモート システムのホスト名。32 文字までの英数字で指定します。
<i>loglevel</i>	<b>logging</b> コマンドのログ レベルを設定するコマンド。
<i>level</i>	ログ メッセージを設定する希望のプライオリティ レベルの番号。プライオリティ レベルは次のとおりです (キーワードの番号を入力)。 <ul style="list-style-type: none"> <li>0-emerg : 緊急 : システムが使用不可。</li> <li>1-alert : アラート : ただちに処置が必要。</li> <li>2-crit : クリティカル : クリティカルな状態。</li> <li>3-err : エラー : エラー状態。</li> <li>4-warn : 警告 : 警告状態。</li> <li>5-notif : 通知 : 正常であるが、重要な状態。</li> <li>6-inform : (デフォルト) 情報メッセージ。</li> <li>7-debug : デバッグ メッセージ。</li> </ul>

**デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

## ■ コンフィギュレーションコマンド

**コマンドモード**    コンフィギュレーション

**使用上のガイドライン**    このコマンドでは、IP アドレス、ホスト名、または **loglevel** キーワードのいずれかを指定する必要があります。これらの引数を複数指定するとエラーが発生します。

**例**    **例 1**

```
ncs/admin(config)# logging 209.165.200.225
ncs/admin(config)#
```

**例 2**

```
ncs/admin(config)# logging loglevel 0
ncs/admin(config)#
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<a href="#">show logging</a>	システムのログ リストを表示します。

## ntp server

NTP サーバによるシステムのソフトウェア クロックの同期化を可能にするには、コンフィギュレーションモードで **ntp server** コマンドを使用します。サーバは 3 台まで許可できます。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**ntp server** {*ip-address* | *hostname*} [*ip-address* | *hostname*] [*ip-address* | *hostname*]

**構文の説明**

<i>ip-address</i>   <i>hostname</i>	クロックの同期を行うサーバの IP アドレスまたはホスト名。引数は 255 文字までの英数字で指定します。
-------------------------------------	---

**デフォルト**

デフォルトで設定されているサーバはありません。

**コマンドモード**    コンフィギュレーション

**使用上のガイドライン**    このコマンドを使用すると、システムを指定したサーバと同期できるようになります。

デバイスの NTP サービスを終了するには、キーワードまたは引数を指定せずに **no ntp** コマンドを入力する必要があります。たとえば、すでに **ntp server** コマンドを入力していて、サーバの同期機能だけでなく、デバイスからすべての NTP 機能を削除する場合は、キーワードを指定せずに **no ntp** コマンドを使用します。このコマンドによって、すべての NTP 機能がディセーブルになり、NTP サービスも終了します。



(注)

このコマンドは、同期プロセス時に矛盾した情報を表示します。同期プロセスは、完了までに最大 20 分かかることがあります。

例

```
ncs/admin(config)# ntp server ncs ncs1 ncs2
ncs/admin(config)#

ncs/admin# show ntp
Primary NTP   : ncs
Secondary NTP : ncs1
Tertiary NTP : ncs2

synchronised to local net at stratum 11
time correct to within 11 ms
polling server every 1024 s

      remote          refid          st t when poll reach  delay  offset  jitter
=====
*127.127.1.0        .LOCL.             10 l  22  64  377  0.000  0.000  0.001
172.23.90.113      .INIT.             16 u   - 1024  0  0.000  0.000  0.000
172.23.90.114      .INIT.             16 u   - 1024  0  0.000  0.000  0.000
172.23.90.115      .INIT.             16 u   - 1024  0  0.000  0.000  0.000

Warning: Output results may conflict during periods of changing synchronization.
ncs admin#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">show ntp</a>	NTP 関連付けに関するステータス情報を表示します。

## password-policy

システムに対するパスワードをイネーブル化または設定するには、コンフィギュレーション モードで **password-policy** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

### password-policy option



(注)

**password-policy** コマンドには、ポリシー オプションが必要です（「構文の説明」を参照）。**password-expiration-enabled** コマンドは、他の **password-expiration** コマンドの前に入力する必要があります。

構文の説明

<i>option</i>	さまざまなコマンド オプション。
---------------	------------------



(注) **password-policy** コマンドを入力すると、**config-password-policy** コンフィギュレーション サブモードに入ります。

<b>digit-required</b>	パスワードには数字が含まれている必要があります。
<b>disable-repeat-characters</b>	4 つを超えて同じ文字が含まれるパスワードをディセーブルにします。
<b>disable-cisco-password</b>	パスワードに、「Cisco」や「Cisco」を含む語を使用できないようにします。
<b>do</b>	EXEC コマンド。
<b>end</b>	コンフィギュレーション モードを終了します。
<b>exit</b>	このサブモードを終了します。
<b>lower-case-required</b>	パスワードに小文字が含まれている必要があります。
<b>min-password-length</b>	有効なパスワードの最小文字数を指定します。0 ~ 4,294,967,295 の整数で指定します。
<b>no</b>	コマンドを無効にするか、またはデフォルト値を設定します。
<b>no-previous-password</b>	前回のパスワードの一部を再使用できないようにします。
<b>no-username</b>	パスワードにユーザ名を再使用することを禁止します。
<b>password-expiration-days</b>	パスワードの有効日数。0 ~ 80 の整数で指定します。
<b>password-expiration-enabled</b>	パスワードの有効期限をイネーブルにします。  (注) <b>password-expiration-enabled</b> コマンドは、他の <b>password-expiration</b> コマンドの前に入力する必要があります。
<b>password-expiration-warning</b>	パスワードの期限が迫っていることを通知する警告を開始するまでの日数。0 ~ 4,294,967,295 の整数で指定します。
<b>password-lock-enabled</b>	指定した回数の試行が失敗したら、パスワードをロックします。
<b>password-lock-retry-count</b>	試行回数を指定します。この回数の試行が失敗するとパスワードがロックされます。0 ~ 4,294,967,295 の整数で指定します。
<b>upper-case-required</b>	パスワードに大文字が含まれている必要があります。
<b>special-required</b>	パスワードに特殊文字が含まれている必要があります。

**デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

**コマンド モード**

コンフィギュレーション

**例**

```
ncs/admin(config)# password-policy
ncs/admin(config-password-policy)# password-expiration-days 30
ncs/admin(config-password-policy)# exit
ncs/admin(config)#
```

## repository

バックアップを設定するためにリポジトリ サブモードに入るには、コンフィギュレーション モードで **repository** コマンドを使用します。

**repository repository-name**

### 構文の説明

<i>repository-name</i>	リポジトリの名前。80 文字までの英数字で指定します。
------------------------	-----------------------------




(注) **repository** コマンドでリポジトリの名前を入力すると、config-Repository コンフィギュレーション サブモードに入ります (「構文の説明」を参照)。

do	EXEC コマンド。このモードですべての EXEC コマンドを実行できます (「do」(P.A-98) を参照)。
end	config-Repository サブモードを終了し、EXEC モードに戻ります。
exit	このモードを終了します。
no	このモードのコマンドを否定します。 2 つのキーワードを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>url : リポジトリの URL。</li> <li>user : リポジトリにアクセスするためのユーザ名とパスワード。</li> </ul>
url	リポジトリの URL。80 文字までの英数字で指定します (表 A-20 を参照)。
user	アクセスするためのユーザ名とパスワードを設定します。30 文字までの英数字で指定します。

表 A-20 URL のキーワード

キーワード	発信元または送信先
<i>word</i>	サーバおよびパス情報を含む、リポジトリの URL を入力します。80 文字までの英数字で指定します。
<b>cdrom:</b>	ローカルの CD-ROM ドライブ (読み取り専用)。
<b>disk:</b>	ローカル ストレージ。 ローカル リポジトリのすべてのファイルを表示するには、 <b>show repository repository_name</b> を実行します。 (注) すべてのローカル リポジトリは、/localdisk パーティションに作成されます。リポジトリの URL で <b>disk://</b> を指定すると、システムは、/localdisk に対する相対パスでディレクトリを作成します。たとえば、 <b>disk://backup</b> と入力すると、ディレクトリは /localdisk/backup に作成されます。
<b>ftp:</b>	FTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。ftp://server/path <sup>1</sup> という URL を使用します。
<b>nfs:</b>	NFS ネットワーク サーバの発信元または送信先の URL。nfs://server:path <sup>1</sup> という URL を使用します。

表 A-20 URL のキーワード (続き)

キーワード	発信元または送信先
<b>sftp:</b>	SFTP ネットワーク サーバの発信元または送信先の URL。sftp://server/path <sup>1</sup> という URL を使用します。
<b>tftp:</b>	TFTP ネットワーク サーバのコピー元またはコピー先の URL。tftp://server/path <sup>1</sup> という URL を使用します。
	 (注) Cisco NCS アップグレードの実行に、TFTP リポジトリは使用できません。

1. *server* はサーバ名です。*path* は /subdir/subsubdir を指します。NFS ネットワーク サーバのサーバ名の後には、コロン (:) が必要です。

**デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

**コマンドモード**

コンフィギュレーション

**例****例 1**

```
ncs/admin# configure terminal
ncs/admin(config)# repository myrepository
ncs/admin(config-Repository)# url sftp://example.test.com/repository/system1
ncs/admin(config-Repository)# user luke password example
ncs/admin(config-Repository)# exit
ncs/admin(config)# exit
ncs/admin#
```

**例 2**

```
ncs/admin# configure terminal
ncs/admin(config)# repository myrepository
ncs/admin(config-Repository)# url disk://
ncs/admin(config-Repository)# user luke password plain example
ncs/admin(config-Repository)# exit
ncs/admin(config)# exit
ncs/admin#
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<a href="#">backup</a>	バックアップ (Cisco NCS と Cisco ADE OS) を実行して、そのバックアップをリポジトリに保存します。
<a href="#">restore</a>	復元を実行して、リポジトリからバックアップを取得します。
<a href="#">show backup history</a>	システムのバックアップ履歴を表示します。
<a href="#">show repository</a>	特定のリポジトリにある使用可能なバックアップ ファイルを表示します。



## service

管理するサービスを指定するには、コンフィギュレーション モードで **service** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

### service *sshd*

#### 構文の説明

service	管理するサービスを指定するコマンド。
sshd	セキュア シェル デーモン。SSH のデーモン プログラムです。

#### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンド モード

コンフィギュレーション

#### 例

```
ncs/admin(config)# service sshd
ncs/admin(config)#
```

## shutdown

インターフェイスをシャットダウンするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **shutdown** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

#### 構文の説明

引数やキーワードはありません。

#### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

#### 使用上のガイドライン

このコマンドを使用してインターフェイスをシャットダウンすると、そのインターフェイスを経由した Cisco ISE-3315 アプライアンスへの接続性が失われます。これは、アプライアンスの電源が投入されていても変わりません。ただし、アプライアンス上に別の IP を使用して 2 番目のインターフェイスを設定し、そのインターフェイスがシャットダウンされていないならば、その 2 番目のインターフェイス経由でアプライアンスにアクセスできます。

インターフェイスをシャットダウンする別の方法として、ONBOOT パラメータを使用して、*/etc/sysconfig/network-scripts* にある *ifcfg-eth[0,1]* ファイルを変更することもできます。

- インターフェイスをディセーブルにするには、ONBOOT="no" と設定します。
- インターフェイスをイネーブルにするには、ONBOOT="yes" と設定します。

また、**no shutdown** コマンドを使用して、インターフェイスをイネーブルにすることもできます。

**例**

```
ncs/admin(config)# interface GigabitEthernet 0
ncs/admin(config-GigabitEthernet)# shutdown
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<a href="#">interface</a>	インターフェイス タイプを設定してインターフェイス モードに入ります。
<a href="#">ip address</a> (インターフェイス コンフィギュレーション モード)	イーサネット インターフェイスの IP アドレスとネットマスクを設定します。
<a href="#">show interface</a>	システムの IP インターフェイスに関する情報を表示します。
<a href="#">ip default-gateway</a>	インターフェイスのデフォルト ゲートウェイの IP アドレスを設定します。

## snmp-server community

簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) へのアクセスを許可するコミュニティ アクセス文字列を設定するには、コンフィギュレーション モードで **snmp-server community** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**snmp-server community word ro****構文の説明**

<i>word</i>	パスワードのように機能するアクセス文字列。これによって SNMP へのアクセスが許可されます。空白は使用できません。最大 255 文字の英数字で指定します。
<b>ro</b>	読み取り専用アクセスを指定します。

**デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

**コマンド モード**

コンフィギュレーション

**使用上のガイドライン**

**snmp-server community** コマンドでは、コミュニティ スtring と引数 **ro** を指定する必要があります。指定しない場合、エラーが発生します。

**例**

```
ncs/admin(config)# snmp-server community new ro
ncs/admin(config)#
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<a href="#">snmp-server host</a>	トラップをリモート システムに送信します。

コマンド	説明
<a href="#">snmp-server location</a>	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。
<a href="#">snmp-server contact</a>	システムで SNMP 接続の MIB 値を設定します。

## snmp-server contact

SNMP 接続の管理情報ベース (MIB) 値をシステムに設定するには、コンフィギュレーション モードで **snmp-server contact** コマンドを使用します。システム接続情報を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

### snmp-server contact word

#### 構文の説明

<i>word</i>	ノードのシステム接続情報を表す文字列。最大 255 文字の英数字で指定します。
-------------	---

#### デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンドモード

コンフィギュレーション

#### 使用上のガイドライン

なし。

#### 例

```
ncs/admin(config) # snmp-server contact Luke
ncs/admin(config) #
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<a href="#">snmp-server host</a>	トラップをリモート システムに送信します。
<a href="#">snmp-server community</a>	SNMP へのアクセスを許可するコミュニティ アクセス文字列を設定します。
<a href="#">snmp-server location</a>	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。

## snmp-server host

SNMP トラップをリモート ユーザに送信するには、コンフィギュレーション モードで **snmp-server host** コマンドを使用します。トラップ転送を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

### snmp-server host {ip-address | hostname} version {1 | 2c} community

#### 構文の説明

<i>ip-address</i>	SNMP 通知ホストの IP アドレス。32 文字までの英数字で指定します。
<i>hostname</i>	SNMP 通知ホストの名前。32 文字までの英数字で指定します。

<code>version {1   2c}</code>	(オプション) トラップの送信に使用する SNMP のバージョン。デフォルトは 1 です。 version キーワードを使用する場合は、次のキーワードのいずれかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>1 : SNMPv1。</li> <li>2c : SNMPv2C。</li> </ul>
<code>community</code>	通知処理で送信されるパスワードに類似のコミュニティ ストリング。

**デフォルト**

ディセーブル

**コマンド モード**

コンフィギュレーション

**使用上のガイドライン**

コマンドでは、一覧に記載されている引数を指定します。指定しない場合、エラーが発生します。

**例**

```
ncs/admin(config)# snmp-server community new ro
ncs/admin(config)# snmp-server host 209.165.202.129 version 1 password
ncs/admin(config)#
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<a href="#">snmp-server community</a>	SNMP へのアクセスを許可するコミュニティ アクセス文字列を設定します。
<a href="#">snmp-server location</a>	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。
<a href="#">snmp-server contact</a>	システムで SNMP 接続の MIB 値を設定します。

## snmp-server location

SNMP ロケーションの MIB 値をシステムに設定するには、コンフィギュレーション モードで **snmp-server location** コマンドを使用します。システム ロケーション情報を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**snmp-server location *word***

**構文の説明**

<i>word</i>	システムの物理ロケーション情報を表す文字列。最大 255 文字の英数字で指定します。
-------------	--

**デフォルト**

デフォルトの動作や値はありません。

**コマンドモード**    コンフィギュレーション**使用上のガイドライン**

*word* 文字列内では、単語の間にアンダスコア ( \_ ) またはハイフン ( - ) を使用することをお勧めします。*word* 文字列内で単語の間に空白を使用する場合、文字列を二重引用符 ( " ) で囲む必要があります。

**例****例 1**

```
ncs/admin(config)# snmp-server location Building_3/Room_214
ncs/admin(config)#
```

**例 2**

```
ncs/admin(config)# snmp-server location "Building 3/Room 214"
ncs/admin(config)#
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<a href="#">snmp-server host</a>	トラップをリモート システムに送信します。
<a href="#">snmp-server community</a>	SNMP へのアクセスを許可するコミュニティ アクセス文字列を設定します。
<a href="#">snmp-server contact</a>	システムで、SNMP ロケーションの MIB 値を設定します。

**username**

SSH を使用して Cisco ISE-3315 にアクセスできるユーザを追加するには、コンフィギュレーション モードで **username** コマンドを使用します。ユーザがすでに存在する場合は、このコマンドを使用してパスワード、特権レベル、または両方を変更します。システムからユーザを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
username username password {hash | plain} password role {admin | user} [disabled
[email email-address]] [email email-address]
```

既存のユーザに対しては、次のコマンド オプションを使用します。

```
username username password role {admin | user} password
```

**構文の説明**

<i>username</i>	引数 <i>username</i> には 1 つの単語のみを指定できます。空白や二重引用符 ( " ) は使用できません。最大 31 文字の英数字。
<b>password</b>	使用するコマンドは、パスワードおよびユーザ ロールを指定します。
<i>password</i>	パスワード。40 文字までの英数字で指定します。パスワードは、すべての新規ユーザに指定する必要があります。
<b>hash</b>   <b>plain</b>	パスワードのタイプ。34 文字までの英数字で指定します。
<b>role</b> <i>admin</i>   <i>user</i>	ユーザの権限レベルを設定します。
<b>disabled</b>	ユーザの電子メール アドレスに従って、ユーザをディセーブルにします。
<b>email</b> <i>email-address</i>	ユーザの電子メール アドレス。たとえば、 <i>user1@example.com</i> です。

## ■ コンフィギュレーションコマンド

**デフォルト** 設定時の初期ユーザです。

**コマンドモード** コンフィギュレーション

**使用上のガイドライン** **username** コマンドでは、**username** および **password** キーワードの後に、**hash** | **plain** および **admin** | **user** オプションを指定する必要があります。

**例****例 1**

```
ncs/admin(config)# username admin password hash ##### role admin
ncs/admin(config)#
```

**例 2**

```
ncs/admin(config)# username admin password plain Secr3tp@swd role admin
ncs/admin(config)#
```

**例 3**

```
ncs/admin(config)# username admin password plain Secr3tp@swd role admin email
admin123@example.com
ncs/admin(config)#
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<a href="#">password-policy</a>	パスワードポリシーをイネーブルにして設定します。
<a href="#">show users</a>	ユーザとそれぞれの権限レベルの一覧を表示します。これにはまた、ログインユーザの一覧も表示されます。